

文部科学省科学技術・学術審議会産業連携・地域支援部会（第23回）

「激動時代におけるイノベーション人材の育成： EDGE-NEXTを中心とした早稲田大学における アントレプレナーシップ醸成の取組み」

早稲田大学

理工学術院 教授

WASEDA-EDGE人材育成プログラム事務局長

ナノ・ライフ創新研究機構 副機構長

博士キャリアセンター センター長

グローバル科学知融合研究所 所長

朝日 透

2019年10月29日（火）

文部科学省 15階15F特別会議室



WASEDA University

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を良くするための17の目標



講演内容

1. 背景

2. 早稲田大学のイノベーション人材育成の取り組み

- EDGE・EDGE-NEXTプログラム
- アントレプレナー育成海外武者修行プログラム
- 産学連携イノベーション教育プログラム

Sustainable Development Goals (SDGs)

- MDGsの終了後、2015年9月、国連で持続可能な開発のための2030アジェンダが採択
- 2030アジェンダは、開発途上国の開発課題にとどまらず、世界全体の①経済、②社会、③環境の三つを不可分として調和させる統合的な取り組み
- 先進国と途上国がともに取り組むべき17の目標と169ターゲット

Sustainable Development Goals (SDGs)



1. 貧困をなくす
2. 飢餓をゼロに
3. 人々に保健と福祉を
4. 質の高い教育をみんなに
5. ジェンダーの平等を実現しよう
6. 安全な水とトイレを世界中に
7. エネルギーをみんなに、そしてクリーンに
8. 働きがいも経済成長も
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
10. 人や国の不平等をなくそう
11. 住み続けられるまちづくりを
12. つくる責任つかう責任
13. 気候変動に具体的な対策を
14. 海の豊かさを守ろう
15. 陸の豊かさも守ろう
16. 平和と公正をすべての人に
17. パートナリーシップで目標を達成しよう

第4次産業革命

➤ 第1次産業革命

軽工業の成立・生産力の飛躍的发展・産業資本主義の成立

➤ 第2次産業革命

重化学工業の発達・エネルギーの多様化と有機化学・金融資本主義の成立と市場分割

➤ 第3次産業革命

ネットワーク形成・障壁のない瞬時の情報伝達・情報産業の隆盛

➤ 第4次産業革命

- ・大量生産・画一的サービス提供から、個々にカスタマイズされた生産・サービスの提供
- ・既に存在している資源・資産の効率的な活用
- ・AIやロボットによる、従来人間によって行われていた労働の補助・代替などが可能

日本におけるSociety 5.0の実現に向けた取り組み

今、求められるもの
(成長戦略第二ステージの課題)

内閣官房

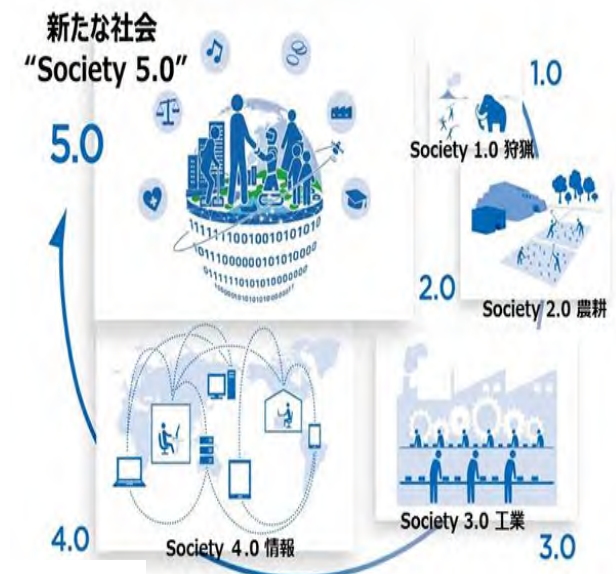
第4次産業革命 (IoT、ビッグデータ、人工知能 (AI)、ロボット) の先端技術をあらゆる産業や社会生活で導入

Society 5.0 の実現 狩猟社会 → 農耕社会 → 工業社会 → 情報社会 → Society 5.0

- ・革新的技術を活かして一人一人のニーズに合わせたサービス提供による社会課題の解決
- ・成長のフロンティア (新たな需要の創出と生産性革命)

ICTを最大限に活用し、サイバー空間とフィジカル空間 (現実社会) が高度に融合した「超スマート社会」を未来の姿として共有し、その実現に向けた一連の取組を「Society 5.0」とし、狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続くような新たな社会を生み出す変革を科学技術イノベーションが 先導し、深化させつつ強力に推進する。

(2016年第5期科学技術基本計画(答申)の概要を参考)

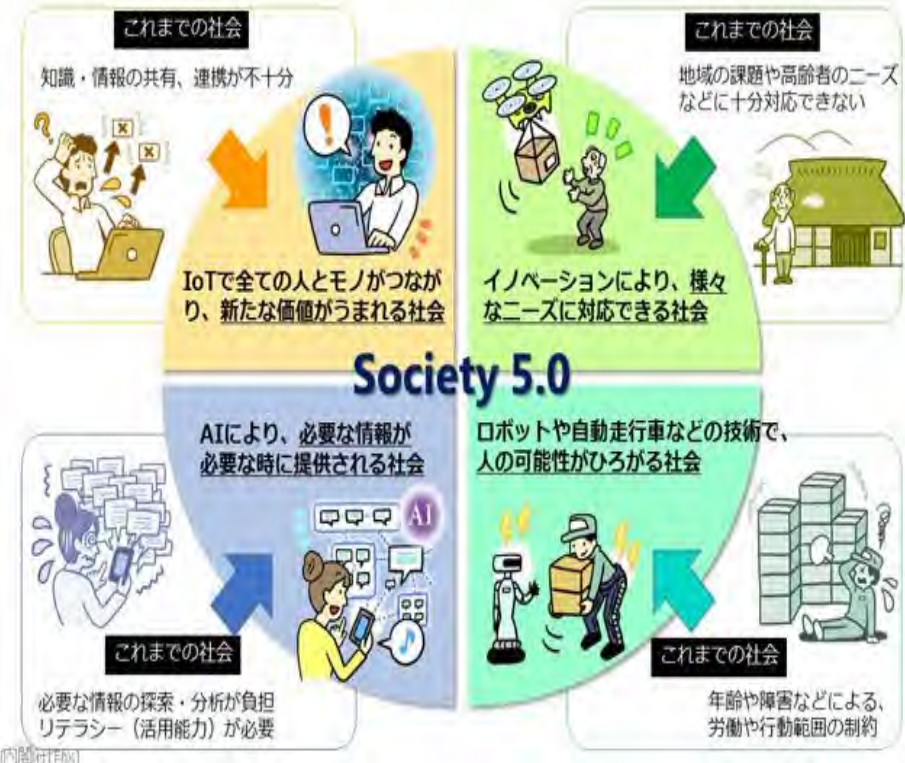


内閣府

日本におけるSociety 5.0の実現に向けた取り組み

超スマート社会

イノベーションで創出される新たな価値により、地域、年齢、性別、言語等による格差がなくなり、個々の多様なニーズ、潜在的なニーズに対して、きめ細かな対応が可能となる。モノやサービスを、必要な人に、必要な時に、必要なだけ提供されるとともに、社会システム全体が最適化され、経済発展と社会的課題の解決を両立していける社会



イノベーション人材の育成

わが国はグリーンイノベーションおよび
ライフイノベーションを重点的に推進

ソーシアル イノベーションを引き起すことのできる
専門的能力の高い人材の育成

- 既存企業において新しい事業・プロジェクトを起こす人材
⇒ **イントレプレナー**
- 自身で会社で起こして新しくビジネスを始める人材
⇒ **アントレプレナー**

Academic Entrepreneur and Industrial Entrepreneur

ICCOSS XXIV



*“Career Design Programs for Diamond Researchers
in Solid State Sciences”*

in XXIV International Conference on the Chemistry of
the Organic Solid State in New York University
on June 19, 2019

Scholar would be an [academic entrepreneur](#), while President, CEO, CTO or CSO of a company would be an [industrial entrepreneur or intrapreneur](#).

The [academic and industrial entrepreneurs](#) emphasize significance of originality and creativity, and have their willing [to challenge new things and to overcome existing difficulties](#).

The [mindset such as entrepreneurship is much important for researchers](#) who wish to contribute to developments and improvements for the human society by sciences and technologies, [“Sciences and Technologies for Society”](#).

Considering present and future society, next-generation researchers; [Diamond Researchers](#), might be required to learn skills and knowledge about information science, big data science, and the AI-related engineering and technology [in addition to their own research discipline and specialty](#).

EDGEプログラム（2014年-2017年）

グローバルアントレプレナー育成促進事業（EDGEプログラム）

平成26年度予定額：907百万円
(新規)

現状分析・課題

- 我が国の成長の原動力となるイノベーション創出を推進するためには、専門分野を持ちつつ、幅広い視野や課題発見・解決能力、起業家マインド、事業化志向を持つ人材の育成が必要。
- 専門知識や研究開発力を持つ人材は育成されてきたが、ベンチャー業界に飛び込む人材や企業内でイノベーションを起こす人材へのニーズが急増。
- 大学とVCのネットワーク等、大学発ベンチャーが成長するための環境(イノベーション・エコシステム)が未発達。

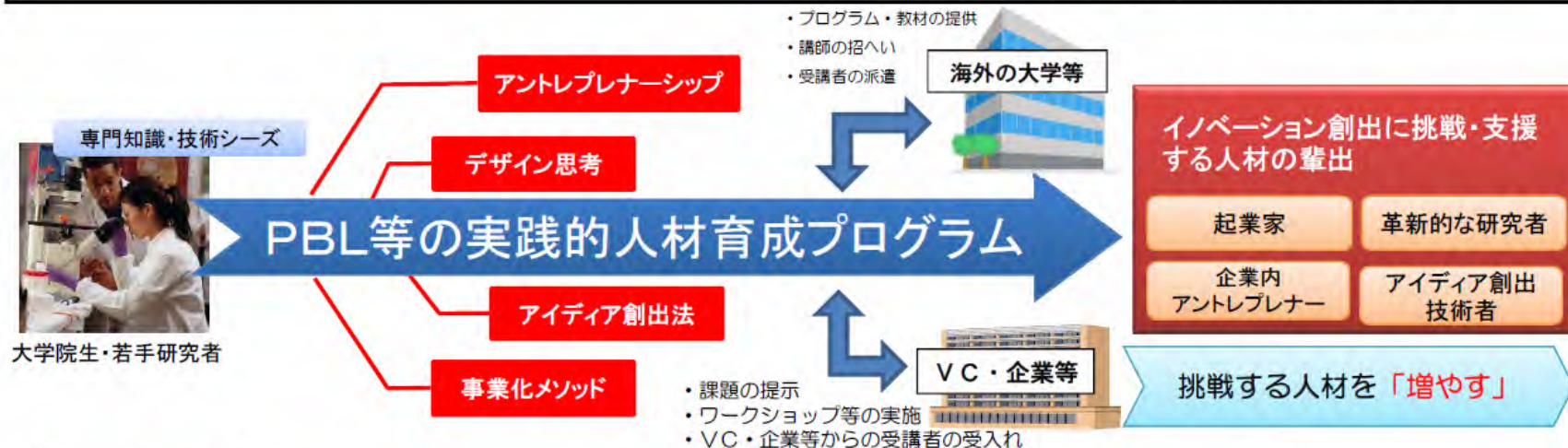
事業の概要

受講対象者：大学院生・若手研究者・ポスドク等

取組内容：海外機関や企業等と連携しつつ、起業に挑戦する人材や、産業界でイノベーションを起こす人材の育成プログラムを開発・実施する大学等を支援

【プログラムの例】 ・ベンチャーキャピタリスト、メーカー、金融機関や大学を巻き込み、事業化メソッドや起業家マインドを若手研究者が取得するプログラム
・「デザイン思考」や「事業化志向」、課題を自ら発見し文理融合型のアプローチで解決を図るPBL(※1)等を中心としたプログラム

(※1) PBL (Project-Based Learning) : 問題解決型学習



期待される効果

- 専門知識や研究開発の素養のある人材が、課題発見・解決能力、起業家マインド、事業化志向を身につけ、大学発ベンチャー業界や大企業に飛び込むことで、イノベーション創出を促進。
- 我が国におけるVC・企業・大学・研究者間のネットワークを強化し、大学発ベンチャー創出の素地を醸成する。

EDGE採択校（13大学：2014年-2017年）

課題名	機関名	総括責任者
東京大学グローバルイノベーション人材育成促進事業	東京大学	堀井 秀之
起業実践プログラムによるイノベーションリーダーの育成	東京農工大学	千葉 一裕
チーム志向越境型アントレプレナー育成プログラム	東京工業大学	飯島 淳一
医・工・デザイン連携グローバルアントレプレナー育成プログラム（iKODEプログラム）の開発・実施	滋賀医科大学	遠山 育夫
GTEP（グローバル・テクノロジー・アントレプレナーシップ・プログラム）	京都大学	梶山 泰生
「世界適塾」魁 -World Tekijuku Groundbreakers-	大阪大学	馬場 章夫
「モノのインターネット」分野でのグローバルアントレプレナー育成プログラム～Global Entrepreneurs in Internet Of Things(GEIOT)～	奈良先端科学技術大学院大学	小笠原 司
ひろしまアントレプレナーシッププログラム	広島大学	岡本 哲治
九州大学グローバルイノベーション人材育成エコシステム形成事業	九州大学	谷川 徹
地域産学官連携型持続イノベーション・エコシステム拠点：科学技術駆動型イノベーション創出プレイヤー養成プログラム	大阪府立大学	辻 洋
グローバルイノベーション人材育成連携プログラム	慶應義塾大学	前野 隆司
WASEDA-EDGE 人材育成プログラム～共創館イノベーション・エコシステムの構築～	早稲田大学	橋本 周司
イノベーション・アーキテクト養成プログラム	立命館大学	建山 和由

WASEDA-EDGEのビジョン、ミッション

■ ビジョン

研究成果やアイデアを自ら創出するだけでなく、地球規模の視点でビジネス創造し、地球市民一人ひとりの幸せの実現に貢献できる**EDGE人材**を育成する。

■ EDGE人材とは

専門的基礎能力を持ち、鋭利な発想、体系的方法により新たな市場を開拓し、グローバル展開可能な新規事業創出につなげる能力を持つ人材。

(例：MIPS創業者、前スタンフォード大学長 John L. Hennessy)

■ ミッション

環境・貧困・災害・紛争等の地球的課題の解決に対して、新規事業・産業の創出によって貢献し、世界の平和と人類の幸福の実現に資する**EDGE人材を年間延べ100名、全事業期間で延べ250名育成する。**さらに、**EDGE人材によるベンチャー創業を3社以上実現**する。

共創館

研究・教育・実践を一体化し、人材育成を行う場として 社会デザイン工房「共創館」を学内2か所に整備

- 学生同士、学生・社会人の共創的なインタラクション
- 産学官連携によるオープンイノベーションを支える人材の恒常的な育成
- 文理に関わらず、多様な分野のホットな情報交換と情報発信

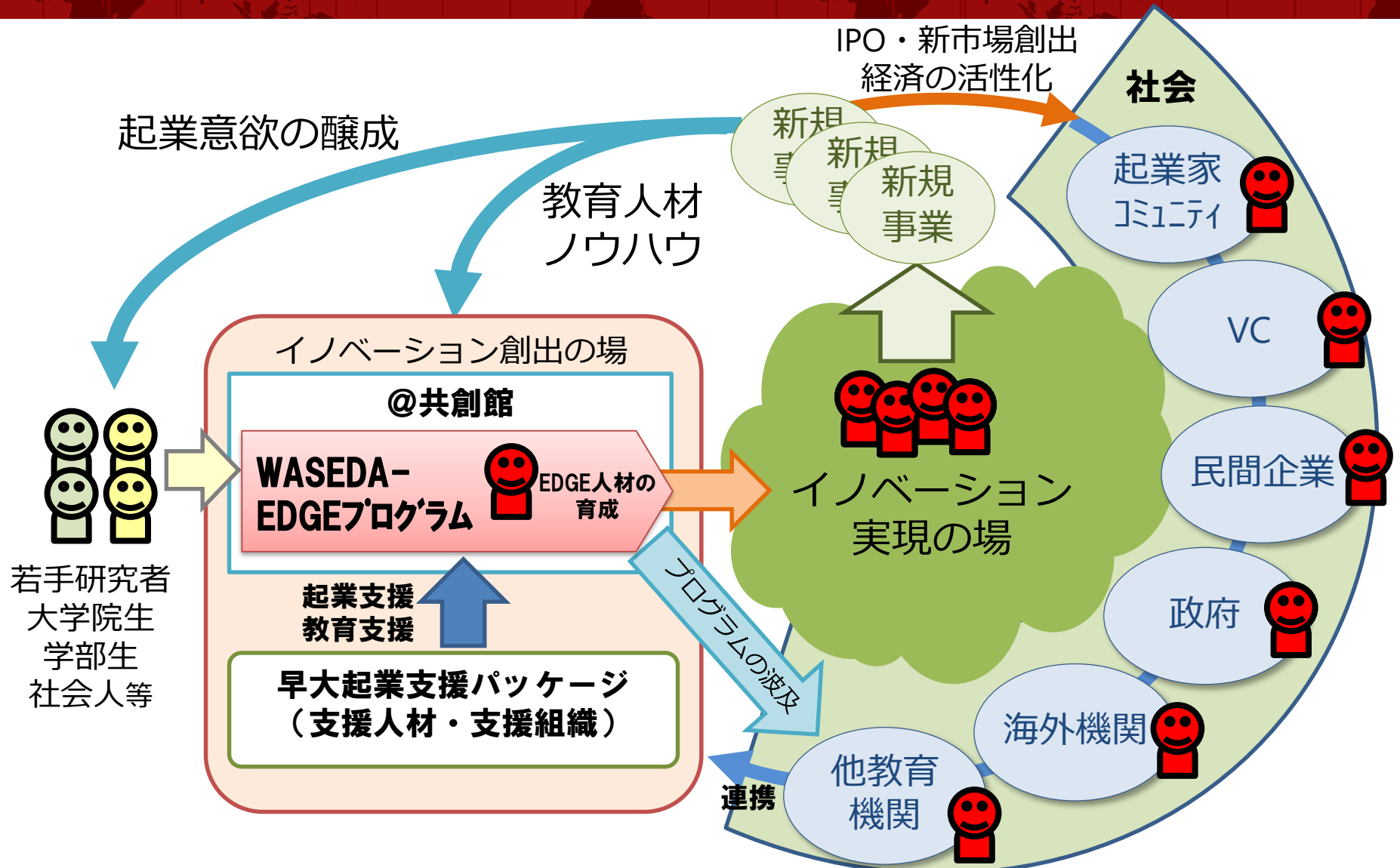


Nishi-WASEDA共創館
@西早稲田(理工学部)キャンパス



WASEDA共創館
@早稲田(本部)キャンパス

イノベーション・エコシステム形成への寄与



共創館を場として実施される「WASEDA-EDGEプログラム」によって育成された、EDGE人材がイノベーション・エコシステム形成の担い手となる

WASEDA-EDGE人材育成プログラムの成果(2014-2017)

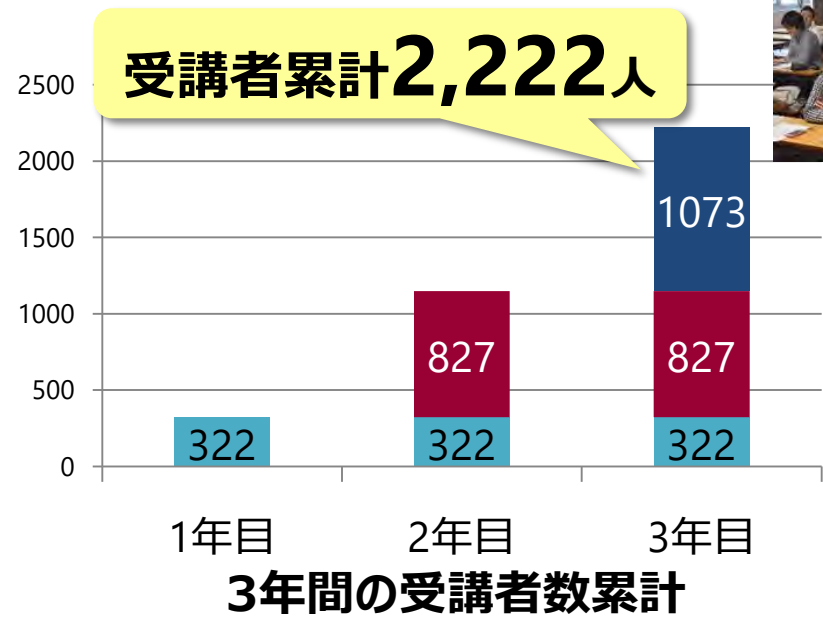
共創館の構築

学生・社会人の共創的なインタラクティブを促進し、産学官連携によりイノベーションを創出する人材を恒常的に育成する場づくり



共創館・西早稲田キャンパス

受講者数とEDGE人材の活躍



起業数累計8件

<p>株式会社テックノウス 先達理工学研究科修士学生が 在学中に起業</p> <p>FanLive 自宅でスポーツ観戦をしているときに日本中、世界中のスポーツファンと声でつながり、一緒に観戦・応援ができるスポーツ専用SNS「FanLive」の開発と事業化。</p>		<p>EAGLYS, Inc 基幹理工学研究科修士学生が 在学中に起業</p> <p>EAGLYS 人工知能(AI)技術やセキュリティ技術の研究開発・導入支援・およびそれらを用いたアプリケーション開発。</p>	
<p>株式会社わたしは わたしは Name is</p> <p>AI研究を基にして、「人を笑わせる人工知能」を開発し、それを使ったチャットボットサービスを開発。NHK「通信御礼」ケータイ大喜利」出演など、テレビ等マスメディアで取り上げ多数。</p>		<p>株式会社skyer (スカイヤー) スポーツ科学部学生が卒業直後に起業</p> <p>skyer ドローンパイロットの養成事業、ドローンを活用した価値提案・営業活動。主に鳥取県、秋田県で事業展開中。</p>	

起業の事例 (当時)

産業界、国等からの注目、評価

資金提供団体・企業の出現、メディアでの取り上げ
国のイノベーション会議での取り上げ



宇佐美 孝太

(うさみ・こうた スポーツ科学部 2015年度卒)

■ 受講したEDGEプログラム

- ・ 起業特論 A, B
- ・ 未来創造デザイン ポップアップワークショップ：リーダーシップ
- ・ ビジネスモデル仮説検証プログラム エssenシャルコース
- ・ WASEDA-EDGE DEMO DAY
- ・ ビジネスモデル仮説検証プログラム プレミアムコース

■ 大学卒業後、株式会社skyer設立

ドローンを通じて地方創生を目指す。都内の大学生がWASEDA EDGEが提供するビジネスモデル仮説検証プログラムを通じて地方に飛び出し、事業を開始した。
ビジネスはドローンのパイロットを育成する教育事業。

「ドローンの学校 in 仙北市」開催
JUIDA認定「ドローンの学校」運営
鳥取県鹿野市観光イベントにてskyer撮影の映像を使用

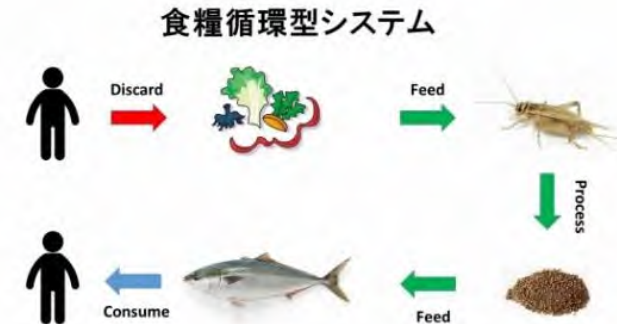


葦苳 晟矢 (あしかり・せいや 早大商学部 4年)

■ 受講したEDGEプログラム

- ・ WASEDA-EDGE DEMO DAY
- ・ ビジネスモデル仮説検証プログラム
プレミアムコース

顧客への直接インタビューを通じて、
ビジネスの仮説を検証することの
重要性を学んだ。



最優秀賞・オーディエンス賞
(ダブル受賞)

昆虫「コオロギ」活用による食糧問題の解決

葦苳 晟矢さん SEIYA ASHIKARI



早大、TOKYO STARTUP GATEWAYWebサイトより

「昆虫飼料活用による食糧循環型システムの確立」

水産養殖業において主要な飼料で、
価格高騰が続く魚粉の代わりに、
コオロギを廃棄野菜で飼育し、
環境に優しく安価な新たな餌
「**ECOLOGGIE**」として生産・
販売する。

■ 主な受賞歴

- ・ インターナショナル・ビジネスモデル・
コンペティション日本大会優勝
- ・ University Venture Grand Prix 大賞
- ・ 第12回キャンパスベンチャーグランプリ
全国大会テクノロジー部門大賞・
文部科学大臣賞
- ・ 第18回早稲田大学ビジネスプラン
コンテスト優勝
など多数受賞

受講生の受賞例

IoTハッカソン

～各種センサーを駆使して戦うハッカソン～

「技術があるで」賞



三菱東京フィナンシャルグループ Fintech Challenge 2016

"Bring Your Own Bank" ハッカソン



アントレ教育プログラム受講者
埴さん、大島さん他（理工）

日経新聞、金融庁主催：フィンテックサミットでの受賞
価値共創デザインプログラム受講者・

山本さん、小口さん、樋口さん **日本経済新聞**
(商学部井上ゼミ)

2016年12月7日（水）

Web刊 速報 ビジネスリーダー マーケット **テクノロジー** アジア スポーツ N マネー N ライ

トップ ニュースプラス IT & 経営 eライフ 新技術 & 科学 環境・エネルギー スタートアップ

テクノロジー > スタートアップ > FinTech > 記事

FinTech

+ フォローする

金融機関の課題に大学生が挑む フィンテック・サミット

2016/10/14 3:30

Twitter Facebook Messenger 保存 印刷 その他

金融機関が抱える課題について、大学生が解決法を提案するコンテスト「アイデア・キャンプ」はサミット開催に先立ち9月10日から始まった。スタートアップの経営陣らフィンテックの現場で活躍する講師からビジネスアイデアの作り方を習った。

20日、学生たちは朝早くから集合。「フィンテックで生活や企業がどう変わるか」をテーマに議論を重ねた。早稲田大学大学院に通う伊藤脩平さんのチームは**大和証券グループ**本社の課題「若者の金融リテラシーを高める仕組みの考案」について検討した。様子を見に来た担当者に「小学生を対象にしてもよいか」と質問。自分で会社を立ち上げ応援したい会社に投資するゲームを考案した。

21日、各チームは各社の担当者を前に事業アイデアを発表した。慶応義塾大学経済学部の大槻くるみさんのチームはうつ病など精神面のケアに着目し、結婚相手を見つけられる保険商品を提案。「独身層に保険に加入してもらえると流ちょうな英

パートナー企業賞 受賞チーム

企業名	受賞チーム	アイデア
日本生命保険	藤原一平 研究会 (慶大)	結婚相手を紹介するサービスを付けた保険
第一生命保険	Team SW AY (早大)	喫煙者をターゲットとした生命保険サービス
明治安田 生命保険	早稲田大学 井上ゼミ11期 (早大)	保険会社の営業職員が家計簿アプリを使い高齢者の支出内容を透明化
大和証券 グループ	Kaizen (慶大)	若者を対象としたゲームアプリを通じて

受講者の主な起業事例

EDGEプログラム当時



• スタースフィア株式会社

- ✓ 新薬開発にかかわる臨床試験や製造販売後調査、治験のデータ管理に用いられる
- ✓ EDC (Electronic Data Capture : 治験で得られた臨床データの収集) システムをクラウドサービスとして提供
ニッセイ・キャピタル等より1.3億円調達

• 株式会社skyer (スカイヤー) ※早大学部卒業生がCEO

- ✓ ドローンパイロットの養成事業、ドローンを活用した価値提案・啓蒙活動
主に鳥取県、秋田県で事業展開中 テレビ等マスメディアで多数取り上げ



• 株式会社わたしは ※早大研究者がCTO

- ✓ AI研究を基にして、「人を笑わせる人工知能」を開発し、それを使ったチャットボットサービスを開発
テレビ等マスメディアで多数取り上げ

• 株式会社テックノウス ※起業時早大大学院生がCEO

- ✓ ライブ会場やスポーツ観戦で応援熱を可視化するアプリ「VizExcite」の開発と事業化



• 株式会社TAP AROUND

- ✓ GPS機能を用いずに、WiFiアクセスポイント内のスマートフォンに広告等を配信するプラットフォームの構築による広告
配信機能の事業化

• マクシズム株式会社

- ✓ 海外からの観光客と通訳案内士をマッチングさせるサービス

• 株式会社EAGLYS株式会社 ※早大大学院生がCEO (博士後期課程在籍)

- ✓ 業務自動化ソリューションの設計・開発、及び運用, AI技術の設計・開発、及び導入支援
日経新聞7月26日付け朝刊でAIモンスターとして取り上げられる

アリババグループ ジャック・マー会長とEDGE受講生との対談

2017年4月25日、大隈講堂大講堂にて中国アリババグループの創業者ジャック・マー会長による特別対談を開催。登壇した二人の学生、今林さん（[大学院基幹理工学研究科](#)博士後期課程在籍：EAGLYS株式会社創業者兼CEO）と葦苳さん（[大学院先進理工学研究科一貫制博士課程](#)在籍：株式会社ECOLOGGIE創業者）は、[Waseda-EDGEプログラム](#)をきっかけとして創業した若手起業家。

<https://www.waseda.jp/top/news/58707>



Fireside Chat



玉城准教授



葦苳さん



マー会長と今林さん

受講者の関心・意欲に関するアンケート結果

プログラム参加後の起業関心度合、新規事業立ち上げへの意欲の変化について
(全受講者を対象にした追跡調査より:2016年8月実施)

起業への関心度合	プログラム参加前 (人)	参加後 (人)	意識変化
非常に関心がある	17	25	47%増↑
関心がある	32	34	6%増↑
どちらともいえない	17	10	41%減↓
関心がない	5	3	40%減↓
全く関心がない	2	1	50%減↓
新規事業立ち上げ意欲	プログラム参加前 (人)	参加後 (人)	意識変化
積極的に関与したい	19	34	79%増↑
機会があれば関与したい	17	26	30%増↑
どちらともいえない	14	12	14%減↓
あまり関わりたくない	2	1	50%減↓
絶対に関わりたくない	1	0	100%減↓

2017年3月、EDGEプログラム終了直後、同年4月にEDGEプログラムの実績に基づいて、新たに実践型教育プログラム「ビジネス・クリエーションコース(BCC)」を設置

BCCでは、文系・理系を問わず、全学部生・大学院生向けに、3つのステージの科目群を軸に起業や企業における新規事業化の知識を実践的に学ぶことができる。

Stage1:「**意識醸成**」では、起業に関する基礎知識に加え、活躍する起業家等の体験に基づく講義により、イノベーション創出や起業に対する考え方やマインドセットを学ぶ。

Stage2:「**アイデア創造**」では、新しい事業を創造するためのアイデア創造のための様々な手法を学ぶとともに、ビジネス設計のフレームワークや制約を踏まえて、単なる思いつきを超えた実践的なアイデアを考え出す方法について学ぶ。

Stage3:「**ビジネスモデル仮説検証**」では、短期間で新規ビジネスをゼロから立ち上げる「ゼロイチ力」を鍛えます。「ビジネスモデル・キャンバス」と「リーンスタートアップ」という新規事業の立ち上げの新定番理論を実践的に学び、想定顧客へのインタビューによるビジネスモデル仮説検証の実践を通じて、新規ビジネスを創造する方法とプロセスを学ぶ。

BCCでは、各ステージの科目群から2単位履修するとともに、Stage4「**ビジネスモデル仮説検証プレミアム**」、または「**産学提携科目**」の履修や「**共創館イノベーションプログラム**」への参加により、8単位相当を修得することで、ビジネス・クリエーションコースの修了を認定し、修了証明書を発行

ビジネス・クリエーションコースの科目群(設置当時)

ビジネス・クリエーションコースの体系化

<https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/program/bcc/>

グローバルエデュケーションセンター ビジネス・クリエーションコース科目

必要取得単位数: 8単位相当

コア科目: 6単位

STAGE 1 意識醸成

- ・起業特論A-D
- A:C:トップリーダーマネジメント **各1単位**
- B:スタートアップエッセシャル **1単位**
- D:Introduction to Global Entrepreneurship and Intrapreneurship **1単位** (英語による授業)
- ・起業家養成講座 I **2単位**
- ・起業家養成講座 II **2単位**

2単位選択

STAGE 2 アイデア創造

- ・ビジネスアイデアデザイン **2単位**
- ・ビジネスモデルデザイン **2単位**
- ・イノベーション創出思考法1・2 **各1単位**
- ・イノベーションプラクティス **1単位**

2単位選択

STAGE 3 ビジネスモデル仮説検証

- ・ビジネスモデル仮説検証エッセシャル **2単位**

必修

修了に必要な単位①

コア科目の各Stageにおいて、
2単位ずつ(計6単位)

STAGE 4 ビジネスモデル仮説検証

- ・ビジネスモデル仮説検証プレミアム **4単位**

修了に必要な単位②

左記「修了に必要な単位①」に加えて、
コア科目の未履修科目、Stage4、産学
提携科目、共創館イノベーションプログラムの
いずれかから、2単位を取得。

産学提携科目

- ・博士実践特論 A・B・S
- A: イノベーションリーダーシップ **2単位**
- B: 産業イノベーションとキャリアデザイン **1単位**
- S: ロジカルコミュニケーション **2単位**
- ・グローバルビジネスコミュニケーション 基礎 **1単位**
- ・グローバルビジネスコミュニケーション 上級 **1単位**
- ・CSRマネジメント実践01 **2単位**
- ・イノベーション概論α・β **各1単位**
- ・イノベーションとテクノロジー基礎α・β **各1単位**
- ・イノベーションとテクノロジー実践α・β **各1単位**

共創館イノベーションプログラム*

- (単位を付与しない教育プログラム)
- イノベーションに関するテーマに対するセミナー・ワークショップを開催(年9回程度実施予定)
- 【2017年度実施予定】
- ・技術を活用したビジネス・デザイン
 - ・早稲田共創館ハッカソン
 - ・経営戦略のデザイン・ワークショップ

EDGE-NEXT プログラム (2017年-2022年)

次世代アントレプレナー育成事業 (EDGE-NEXT)

平成29年度予算額 : 330百万円 (新規)

<背景・必要性>

- 日本の起業率は他国に比べ非常に低く、これは起業による失敗の恐れよりも、知識・経験の不足や身近なロールモデルの不足が原因であることが明らかとなっている。
- 日本再興戦略2016やベンチャーチャレンジ2020等において、起業家人材の育成を含めベンチャー創出力を強化する方向性が打ち出されている。

日本再興戦略2016(2016年6月2日 閣議決定)【抜粋】

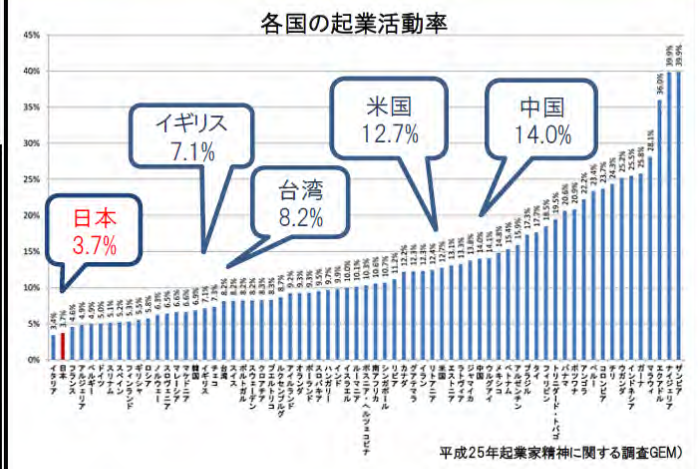
- ベンチャー企業の増加に向けて、起業に挑戦する人材の増加を目指し、人材育成の取り組みを促進する。

ベンチャーチャレンジ2020(2016年4月19日 日本経済再生本部決定)【抜粋】

- 開業率・廃業率は、**社会の起業に対する意識の改革も必要**とし、長期的な目標となるため、今後10年間を見据えた補助指標として、「**起業活動指数(「起業家精神に関する調査」において、「起業者・起業予定者である」との回答を得た割合)を今後10年間で倍増させる。**

産業界からのベンチャー企業への期待～「新たな基幹産業の育成」に資するベンチャー企業の創出・育成に向けて～(2015年12月15日 日本経済団体連合会)【抜粋】

- 文部科学省の「**グローバルアントレプレナー育成促進事業(EDGEプログラム)**」等、起業家人材を育成し、大企業や大学のマインド変革を促す事業が進められてきた。これらは**産業界としても評価しており、継続・拡大が求められる。**



<事業の目的>

- EDGEプログラムの成果や知見を活用しつつ、人材育成プログラムへの受講生の拡大やロールモデル創出の加速に向けたプログラムの発展に取り組むことで、起業活動率の向上、アントレプレナーシップの醸成を目指し、我が国のベンチャー創出力を強化する。

<事業の概要>

- 取組内容 学生等によるアイデア創出にとどまらず、実際に起業まで行える実践プログラムを構築する、アントレプレナー輩出に意欲的な機関の取組を支援。
また、アントレプレナー育成に必須の新たなネットワーク構築等、国全体のアントレプレナーシップ醸成に係る取組を実施。
- 支援対象 優れた人材育成プログラムを実施すると見込まれる大学等を5機関程度採択し、各拠点のアントレプレナー育成に係る高度なプログラム開発等、エコシステム構築に資する費用を支援。ただし複数の民間企業や海外機関、他大学との連携を条件。
- 支援規模 5コンソーシアム程度(30~50百万円程度/コンソーシアム)
- 支援期間 5年間

事業イメージ

- ①採択コンソーシアム
A又はBを満たす複数の機関によるコンソーシアム
(A)EDGE採択機関のうち、真に優れた取組を実施している機関
(B)本事業に資する取組が可能と見込まれる機関
- 【実施プログラムの例】
・学部学生や企業の若手人材を含めた多くの受講生に対し、デザイン思考等のアイデア創出やPBL型の手法を活用し、創造性涵養を図る
・発展途上国や民間企業の実課題を用い、新事業の創出のためのより実践に近い取組を実施
- ②近隣大学等との連携
・コア機関は複数の機関と連携して人材育成を実施
- ③民間企業・VC・海外機関等との連携
・関係者間の人・組織・資金等のネットワークの構築を実施



EDGE-NEXT採択校（5コンソーシアム：2017年-2022年）

プログラム名称	主幹機関	協働機関
“EARTH on EDGE”～東北・北海道からの起業復興～	東北大学	北海道大学、小樽商科大学、京都大学、神戸大学、宮城大学
産官学グローバル連携によるEDGE NEXTプログラム（Global Tech EDGE NEXT）	東京大学	筑波大学、お茶の水女子大学、静岡大学
Tokai-EDGE（Tongali）プログラム	名古屋大学	岐阜大学、名古屋工業大学、豊橋技術科学大学、三重大学
多様性と創造的協働に基づくアントレプレナー育成プログラム（IDEA: Innovation x Diversity x Entrepreneurship Education Alliance）	九州大学	奈良先端科学技術大学院大学、大阪府立大学、立命館大学
EDGE-NEXT 人材育成のための共創エコシステムの形成	早稲田大学	山形大学、滋賀医科大学、東京理科大学

➤ 早稲田大学コンソーシアム協力機関（プログラム開始当時）

- ◆ **海外**：Babson College（米国）、University of Maryland, Academy for Innovation and Entrepreneurship（米国）、The California Institute for Innovation and Development (CIID) at UC San Diego Rady School of Management（米国）、Sten K. Johnson Centre for Entrepreneurship, Lund University（スウェーデン）、Chalmers School of Entrepreneurship, Chalmers University of Technology（スウェーデン）、University of Ottawa（カナダ）、北京大学（中国）、韓国外国語大学校 創業教育センター（大韓民国）、中信金融管理学院（台湾）
- ◆ **企業等**：株式会社本田技術研究所、一般財団法人大川ドリーム基金、ラーニング・アントレプレナーズ・ラボ株式会社、一般社団法人日本社会イノベーションセンター、頂新国際集団康師傅控股有限公司（頂新グループ）、台湾三三會青年会（台湾）、Scrum Ventures（米国）、東レエンジニアリング株式会社、MIT-REAP REAP Tokyo Team、東京理科大学インベストメント・マネジメント株式会社、特定非営利活動法人 ワイ・リサーチ・イノベーション、東北イノベーションキャピタル株式会社、株式会社山形銀行、株式会社荘内銀行、米沢信用金庫
- ◆ **大学等**：多摩美術大学 生産デザイン学科 プロダクトデザイン専攻、会津大学
- ◆ **地方自治体等**：北九州市役所、公益財団法人 北九州産業学術推進機構（FAIS）、東京都産業労働局、富山県

The logo consists of the letters 'E' and 'N' in a stylized, blocky font. The 'E' is composed of three horizontal bars, with the middle bar having a grey rectangular cutout on its left side. The 'N' is a solid dark red shape with a grey triangular cutout on its left side.

Skyward

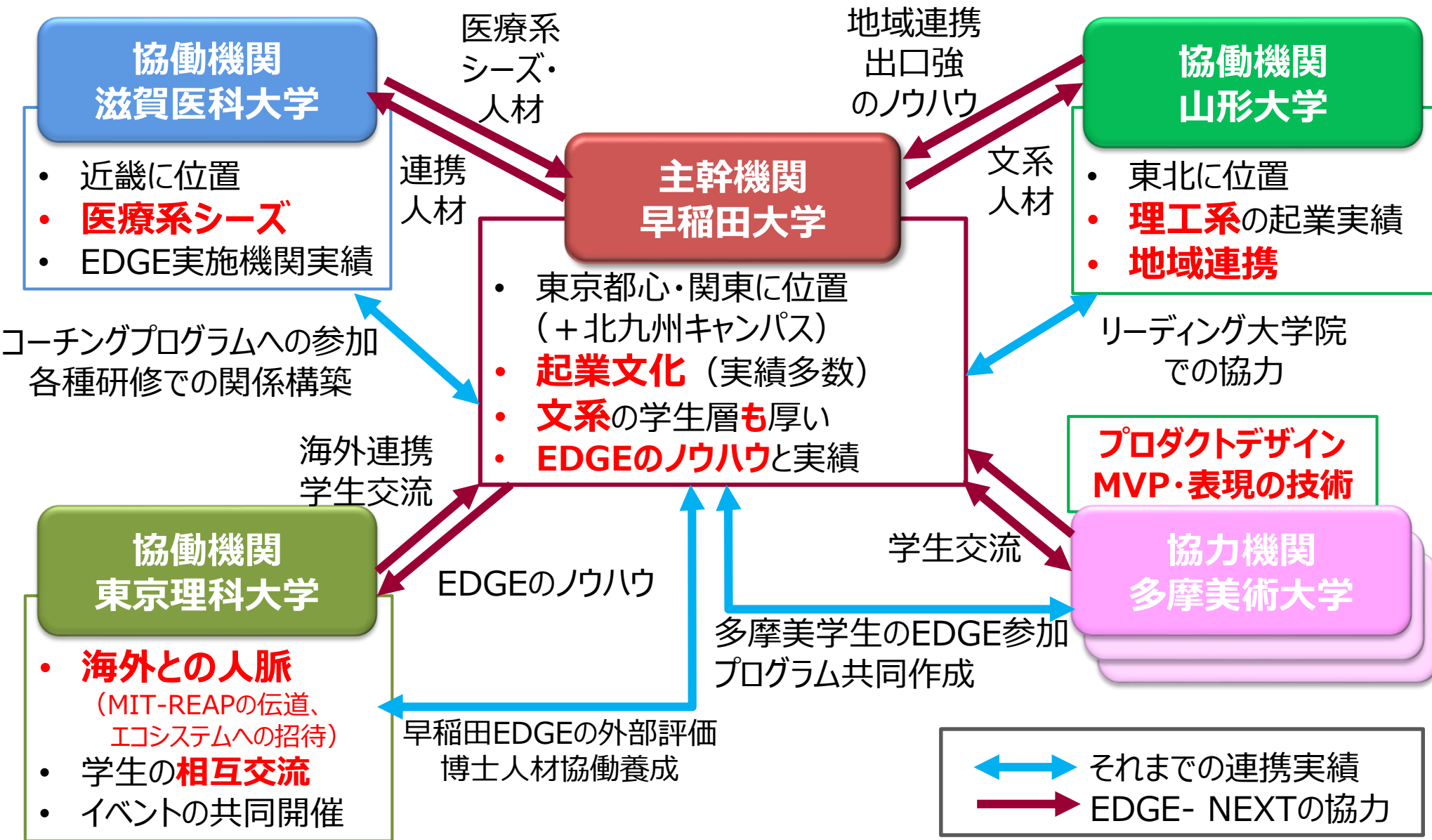
Skyward : 空へ向かう

S=滋賀医大、 Y=山形大、 WA = 早稲田大、 RD=東京理科大

<https://waseda-edge.jp/>

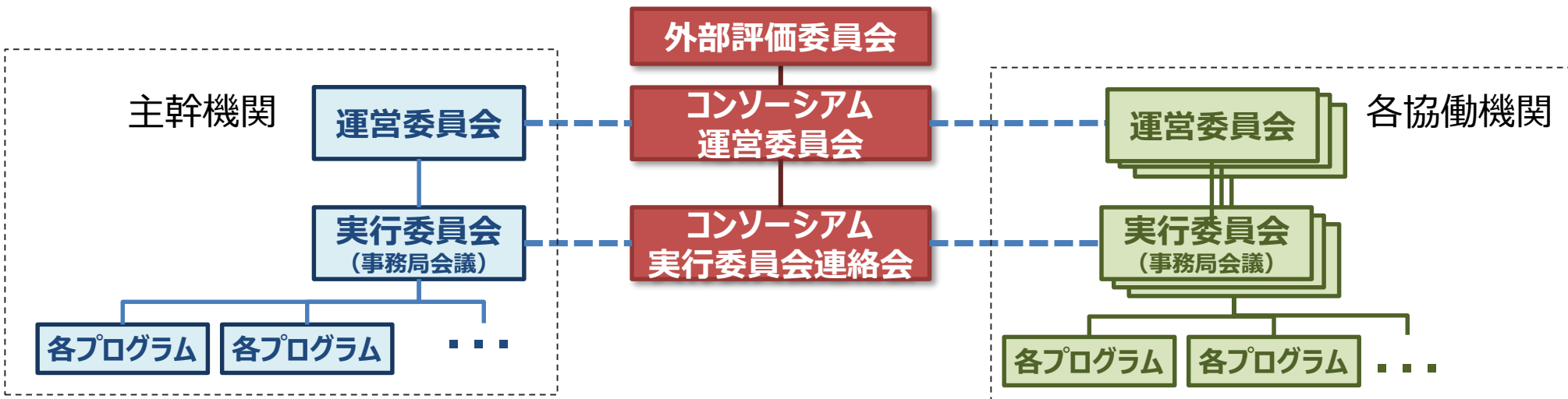
EDGE-NEXT実施コンソーシアムの体制と特徴

EDGE-NEXT開始当時



コンソーシアム連携体制

EDGE-NEXT開始当時



<機関ごとに実施する会議の位置づけ例>

運営委員会： 理事、学術院長、中核となる教職員が参加し、運営の基本方針を検討

実行委員会： プログラム実施の中核となる教職員、個別テーマに関する教職員が参加し、具体的な実施計画を協議

<コンソーシアムで実施する会議>

コンソーシアム運営委員会： 原則、年1回開催

- 趣旨：事業全体の理念・ゴールの確認、戦略・運営についての議論、進捗管理等を行う
- 想定出席者：主幹機関、協働機関における副学長・理事等責任者、中核となる教職員

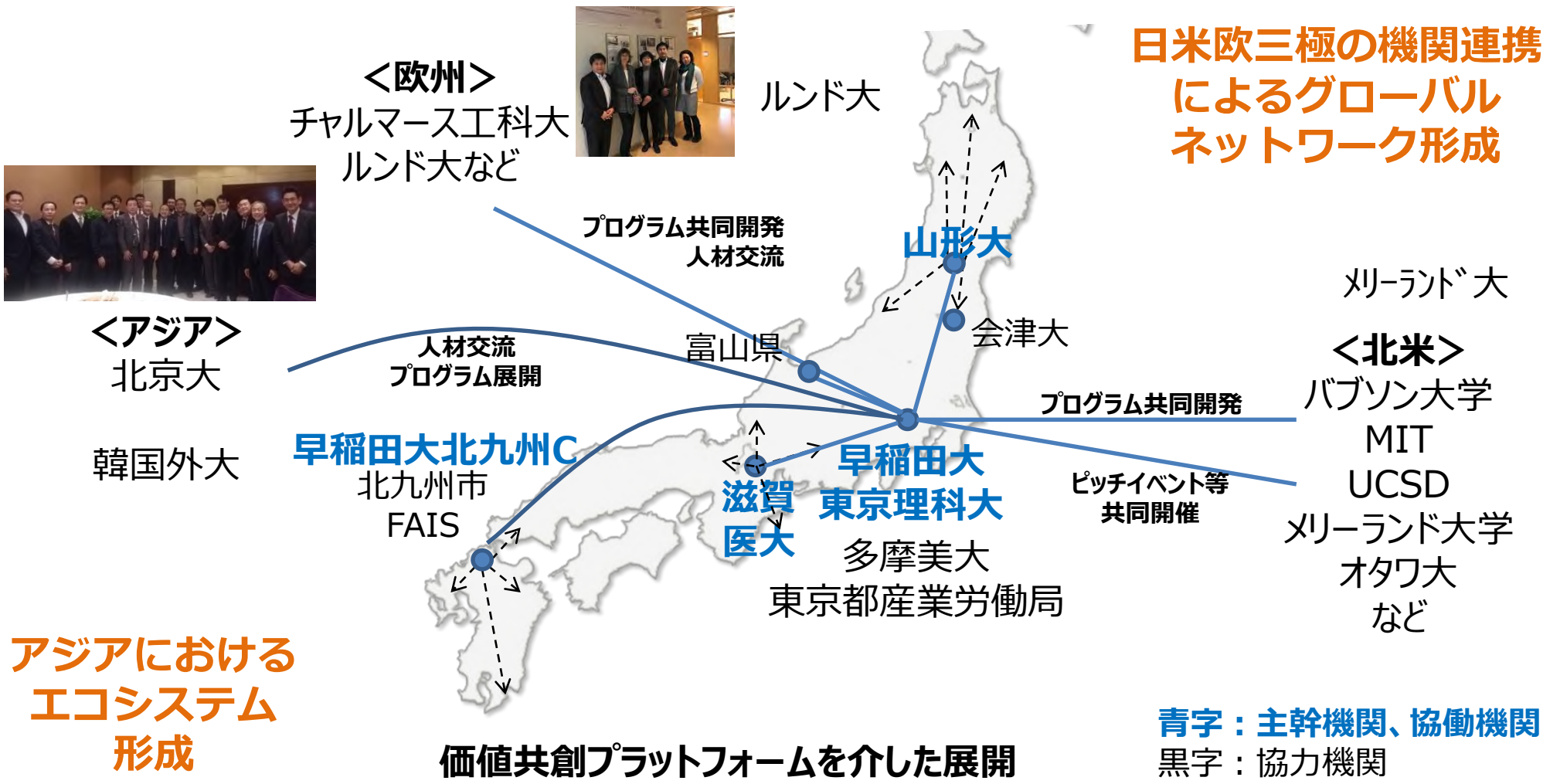
コンソーシアム実行委員会連絡会： 四半期に1回程度開催

- 趣旨：教育プログラム、イベント開催、広報、外部資金導入などの個別テーマについての連携に関わる議論、進捗管理等を行う
- 想定出席者：中核となる教職員、個別テーマに関する教職員

国内外との連携によるダイナミックなプログラム展開

EDGE-NEXT開始当時

日米欧三極の機関連携によるグローバルネットワーク形成



理工系・文系・医療系・芸術系など多様な専門分野を持つ大学の連携
 自治体の参画による現場の確保 地域拠点による地方創成
 海外連携による先進的な知見の輸入と開発プログラムの展開 国際競争力の強化

実施する教育プログラムのイメージ、育成するアントレプレナー像

🎒 = コーチング 🛠️ = 知識、手法

👤 = メンター、VC等



教育のための実践



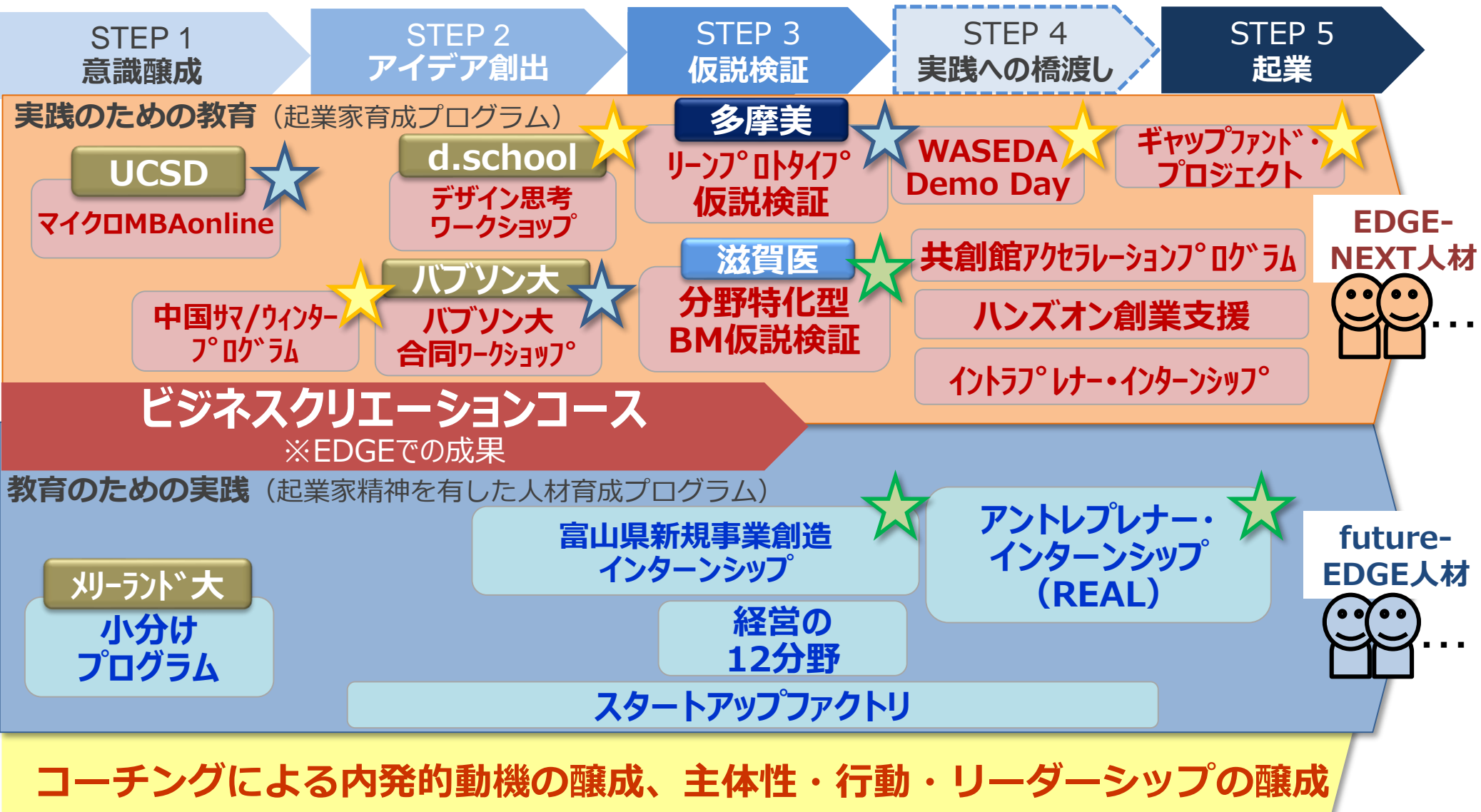
<future-EDGE人材>
 自らイノベーションを起こす意欲を備え、**将来起業あるいは新規事業創出を担うことのできる候補生の育成。**

実践のための教育



<EDGE-NEXT人材>
 実践的なビジネスデザイン技法を備え、グローバルビジネスピッチ等でVC等への発信力を有する、価値起点で**実際に起業あるいは新規事業創出が実現できる人材の育成。**

実施する教育プログラムの全体像：2019年度現在



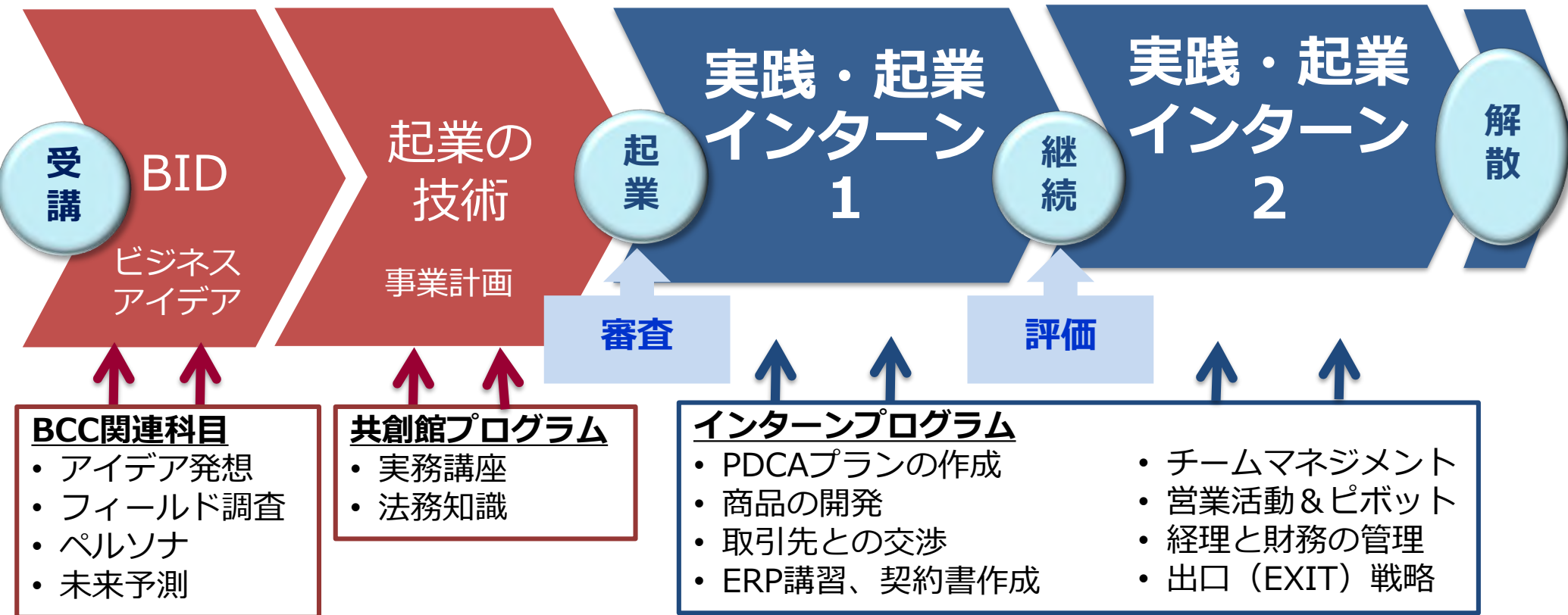
★ | 2018年度から実施のプログラムをバージョンアップしたもの

★ | 2018年度からスタートしたもの

★ | 2019年度より新たに加えたもの

<教育プログラム開発> 実践・起業インターン (REAL)

EDGEからの発展➡「教育のための実践」の取り組みとして実体験の機会の提供
REAL: Real Entrepreneurship by Active Learning



- 会社設立から解散までの一連の起業ライフサイクルをインターンとして体験
- 早い段階でスタートアップを経験させる

<教育プログラム開発> 実践・起業インターン (REAL)

開講前まで抱えていた課題

- 学生には**起業の実体験の機会が必要**だが、授業の中ではリスクを負わせられない
- 実体験の場が学内にはない

実践・起業インターン (REAL) の企画・実施

- **起業インターン受け入れ先企業を確保**。事業の契約主体はあくまで受け入れ企業であり、受け入れ企業と学生の間には債権債務関係も発生しない体制を構築

東洋経済
ONLINE 2月12日(火) 週刊東洋経済プラス | 四季報オ
トップ ビジネス 政治・経済 マーケット キャリア・教育 ライフ 鉄道
キャリア・教育 ▶ スタートアップ

早稲田大学が「起業インターン」を始めたワケ
営業利益の25%を学生に支払うほど実践志向

並木 厚暈: 東洋経済 記者 著者フォロー 2018/12/02 5:30

シェア 776 ツイート 一覧 BI 1 コメント 7 印刷 A A



起業をインターンで体験する、新たな取り組みが始まった (記者撮影)

「今日は、会社の顧客に関する仮説を立ててみましょう。顧客の抱える課題などの10項目を、法人顧客と個人顧客に分けて書き出してください」

履修者は3チームに分かれて、1年をかけて一連の起業のサイクルを体験。各チームには「資本金」としておよそ30万円ずつが振り分けられ、商品開発から営業・販売・管理までを実践する。

➔ **2018年度秋学期、2019年度春学期で第一期プログラム修了。**
2019年度秋期より、第二期プログラム開始。

←東洋経済ONLINE(2018/12/02)での紹介

マイクロMBA (UCSDとの連携認定プログラム)

**理系バックグラウンドをもつ、大学院生、学部生及び社会人と対象に、
MBAレベルのビジネス知識を18時間で習得できるプログラム**

- **UCSDとの連携認定プログラム**：全てのセッションは**英語で行われ**、EDGE-Next及び高度データ関連人材育成プログラム登録者（理系博士・修士・学部生及び文系学部生・修士）、早稲田ビジネススクール生・卒業生等、学内外から受講(2018年度)
- Farewell LuncheonでUCSDのRady School of Managementと早稲田大学ビジネス・ファイナンス研究センターとの連名のCertificateを授与

■ 講義内容 Schedule (2018年実施例)

Tuesday, February 6 19:00-22:00(JST) / Management of Innovation

Saturday, February 10 10:00-13:00(JST) / Mindfulness

Tuesday, February 13 19:00-22:00(JST) / Marketing

Saturday, February 17 10:00-13:00(JST) / Power & Leadership

Tuesday, February 27 19:00-22:00(JST) / Financing for Innovation

Saturday, March 3 10:00-13:00(JST) / Difficult Conversations

※土曜日の授業は米国カリフォルニア・サンディエゴから遠隔授業



東京理科大の修了生



Waseda Siteでの講義



UCSDからの遠隔講義



Waseda Siteでの認定式

＜教育プログラム開発＞ 医療特化型ビジネスモデル仮説検証

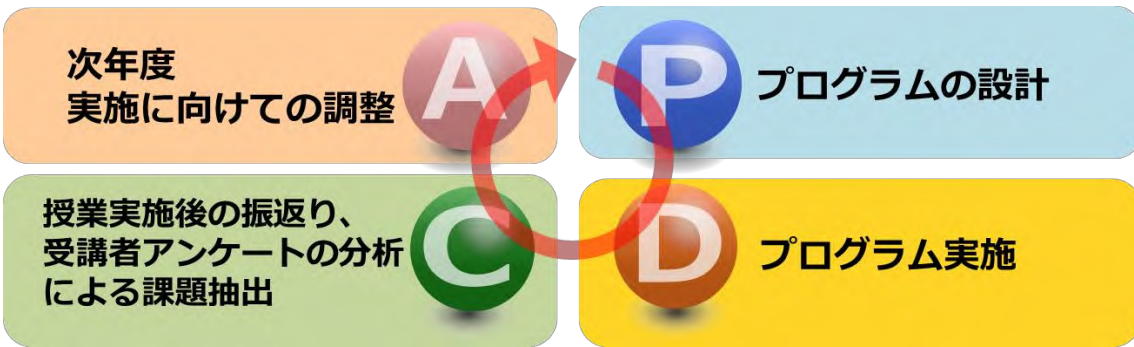
➤ コンソーシアム各機関の特長を生かした連携プログラムの実施

分野特化型ビジネスモデル仮説検証として、 医療特化型ビジネスモデル仮説検証を実施

- 滋賀医科大学と連携してプログラムを企画し平成30年度より実施。受講者はコンソーシアム全体から募集（滋賀医科大学、東京理科大学、早稲田大学より参加者あり）
- 大学混合でチームを形成しプログラムに取り組む。病院内の看護の現場を題材に、看護師にヒアリングを行って商品コンセプトを発案。
- 医療機器の専門家、医療機器ベンチャー創業社長による講義も実施
- 3月の東大主催シンポジウム（共通基盤事業）でも、代表チームが成果発表をおこなう



➡ 2019年度、さらにプログラムを充実させて実施済



～2016年度 BM仮説検証PGを早大生のみで行った

課題 プロトタイプの適切な制作法が分からない



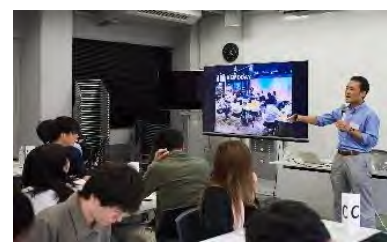
2017年度 多摩美術大学に連携打診
表現力に長けた多摩美生との混合チームをつくった

長所 プロダクトの表現力が向上した

課題 チーム作りの良しあしで理解度や受講満足度に差が生じた
プロトタイプの作成について、役割の偏りが生じた。



2018年度 **リーダーシップ行動を促すチームビルディングの導入**
具体的なテーマの設定、プロトタイプ素材の限定



多摩美大生と早大生の
共同チーム



アイデア出しグループワーク



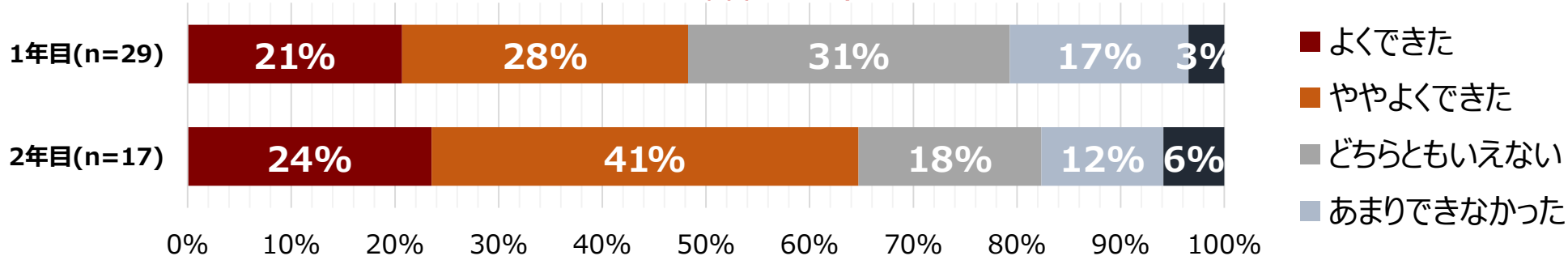
エニアグラムを活用したチーム分け



最終発表での講評

●アンケート結果より得られたチームビルディングの効果

プロダクトデザインの達成度が上昇（自己評価結果）



●ヒアリング等より得られたチームビルディングの効果

「チーム」に関する言及割合の増加 内容もポジティブに変化

チームについて言及した人数 2017年 6/29人

グループワークのデザインがあまり出来なかった/バックグラウンドがちがう班のモチベーションを保つのが難しかった/背景、文化、考え方が全く違う人とチームワークすること/チームビルディング（2人）/チームで出したアイデアが課題に当たった際すぐに一転してアイデアを考えてしまうのではなく、この延長線上で検討すれば面白いアイデアになること

チームについて言及した人数 2018年 6/17人

チームでの作業の難しさを理解し、それに対して自分なりの解決策も修得した/チームワークがためになった/チームのアイデアの高め方/プレゼンの仕方とチームでの立ち位置/チームビルディングの難しさ/わくわくするチームワークが大事なんだと思えた

●2019年度以降の取り組みにおける目標

- ・チームビルディング、プロセス支援は継続
- ・履修生に対する単位付与
- ・授業終了後のDemo Day開催等、チームの中長期目標となるイベントの設置
- ・大学間の地理的な距離を克服するためのより効率的な授業運営

Skyward EDGE合同FD研修@飯豊町

- ▶ 各協働機関のリソースの相互補完、主幹機関のコンソーシアム全体のマネジメント
- ▶ 既存のプログラムに他大から受講生を送るだけでなく、コンソーシアム全体でプログラムを作り上げる

↳ コンソーシアム合同プログラムの企画・実施

- コンソーシアム主幹・協働全機関の担当教職員が参加するプログラム内容検討ワークショップを主幹機関で企画、コンソーシアム実行委員会連絡会にて実施
- コンソーシアム主幹・協働全機関から参加者を出しFD研修を実施 ⇒ **一体感・連帯感の醸成**

- 日時：2019年3月17日（日）10:00～18:00
- 場所：山形県飯豊町中部地区農村活性化センター
- ワークショップテーマ：

「大学生が飯豊町で行う協働プログラムの内容・活動をデザインするワークショップ」

FD研修参加者（計20名）

- 早稲田大：高田、朝日、島岡、鬼頭、鄭、キョウ
- 滋賀医科大：松浦 昌宏、松浦 孝範
- 東京理科大：岡村、山口、伊東
- 山形大：小野寺、服部、猪井、泡淵、安房、貝沼、五十嵐
- 飯豊町役場：2名



<教育プログラム開発> Skyward EDGE合同 F D 研修@飯豊町

コンソ全機関から参加者が集まり、飯豊町役場全面協力（実施会場提供、見学ツアー開催等）で実施

木質バイオマス製造施設見学



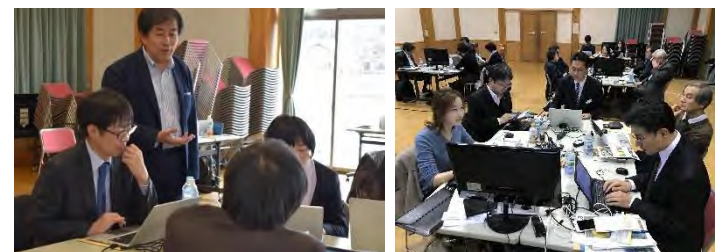
YUKIMURO(自然エネルギー低温貯蔵施設) 見学



山形大学 x EV飯豊研究センター見学



i.school 堀井先生によるワークショップ



2019年度は、多摩美術大学も含めた全機関からの学生を集めて合同ワークショップを実施中

2019年度実施Skyward EDGE合同WS

- 日時：2019年8月28日～30日
- 場所：山形県飯豊町中部地区農村活性化センター
- 参加対象：コンソーシアム各機関の学生、教員、飯豊町関係者
- ワークショップテーマ：

「移住者の立場・気持ちになって、飯豊町をフィールドとした地域イノベーション考えよう」

2019/08/28 - 08/30

山形県飯豊町×Skyward EDGE 2019年度コンソーシアム合同プログラム

5大学の学生が力を合わせて地域イノベーションを起こす！

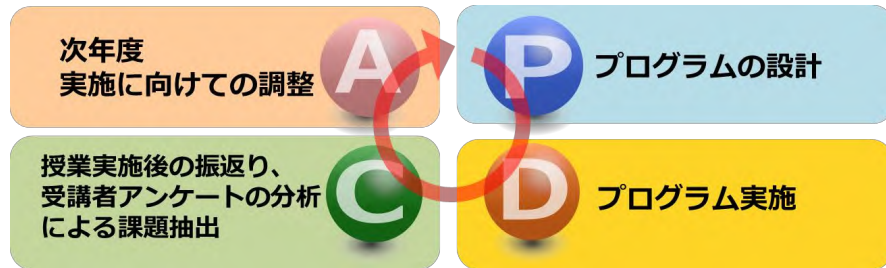
申込み受付終了しました。多数のお申込みありがとうございました。



2019年度より、Skyward EDGE コンソーシアムを構成する、滋賀医科大学、東京理科大学、山形大学、多摩美術大学、早稲田大学の5大学による合同プログラムがスタートします。

倍率10倍の応募から、面接して参加者を選考

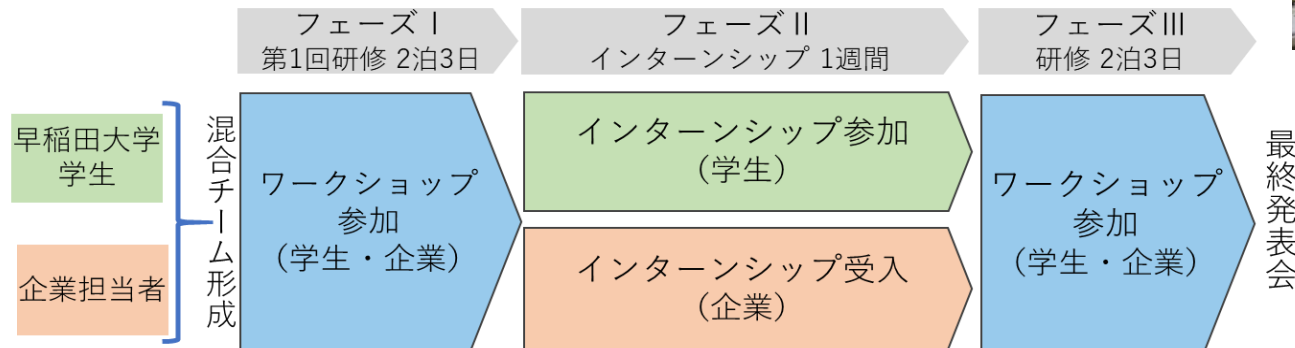
<教育プログラム開発> 富山県新規事業創造インターンシッププログラム



富山県からの外部資金導入により実施



●プログラムの設計・実施



●2018年度受講生の声

(参加学生より)

- 自治体・企業・大学が関わっている今までに例を見ないインターンシップに参加できてよかったと思う。仲間と切磋琢磨した時間は非常に良い経験となった。/実際に第一線で働く企業の方とチームを組んで、上下関係のない中で同じプロジェクトに取り組むことが新鮮だった。

(参加企業担当者より)

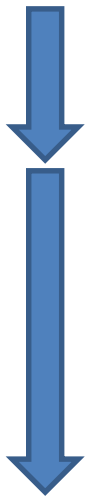
- 与えられたテーマは難しいものであったが、学生とともに同じ目線で粘り強く取り組むことで非常に有意義な時間を過ごすことができた。

●2019年度改良点

- インターンシップ参加受入れ学生数の増加 (2018年度定員：5名⇒2019年度定員：15名)
- 履修により2単位分の付与
- 参加企業の選定
- 実施場所の変更 (早稲田と富山両方で実施)

<教育プログラム開発> 中国重点大学群学生対象 集中プログラム

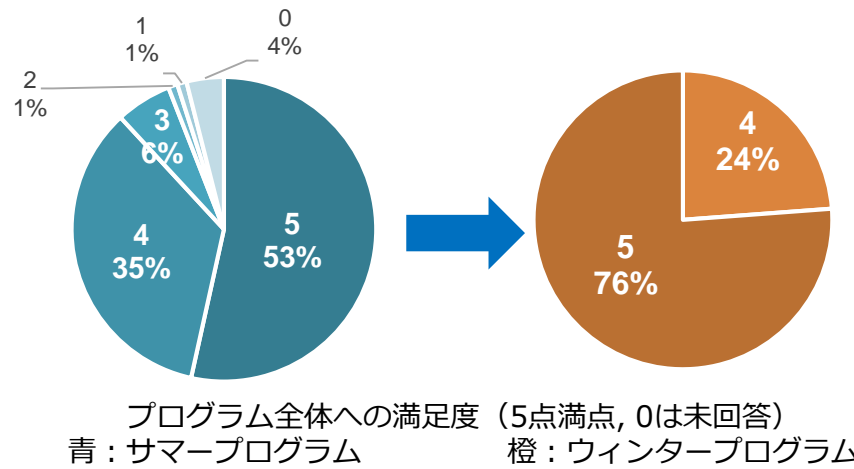
設定の経緯



WASEDA-EDGEで海外向け展開を模索していたところ、かねてより情報交換等を行っている**本学国際課経由***で仲介に興味のある企業の紹介があった。（*これまでに、アリババグループ ジャック・マー会長とEDGE受講生との対談、日韓ミレニアムフォーラムでの発表などで頻繁に連携）

受講対象者に合わせて下記を含む5日間のプログラムを企画

- 具体的なテーマ（中国に旅行で訪れた外国人観光客の満足度を向上させる）の設定のもとビジネスアイデアを創出する、グループワーク、AL (Active Learning)の導入。
- コーチングの研修を入れ、グループ内のコミュニケーションを活発化させチームビルディングを促進
→ AL, グループワーク、コーチングとも、中国の大学ではそれほど一般的でないため、これらを強調したプログラム設計を行った。
- 本学学生のTAを各グループに配置し、学生間の交流を図った
- 受講者アンケートを踏まえてプログラムを改善



●受講生からの評価 (ウィンタープログラムアンケートより抜粋)

- 各コンテンツに対する感想
- <Coaching>
 - I've learnt how to listen to others and how to ask question. The suggestion is helpful.
 - <Business Model Innovation>
 - Really learned some important rules in Business Model innovation. It many helps my career later in my life

今後の展望

安定した受講生数の確保。台湾等アジア他地域を対象にプログラム拡大

「WASEDA-EDGE ギャップファンド・プロジェクト」

- アイデアも事業化する意思もある受講生に対して、より出口に近いところでのサポートを充実したい

↳ WASEDA-EDGE ギャップファンド・プロジェクト

- 「会計」や「知財」に関する講義も受けながら自らの研究シーズを基にした事業化案を練り上げる。
- 講義最終日の事業化案発表会にて、高評価を得た数チームがギャップファンド（民間企業からの外部資金が資金源）を授与。
- それを利用して試作開発を行ない最終成果報告会にて発表し、その後の国の補助金確保を含め、事業化に向けての道筋をつける。

（受講者の声）

- ギャップファンド・プロジェクトは、アイデアを具体化するための支援をしてくれました。今あるアイデアから一歩前に進めたい方には、是非受講してほしいです。私たちは今後、**実際の起業に向けて活動**していきます。きっかけはギャップファンドといえる日が来るために。
- 事業案について今まで見ていなかったマーケットニーズについて考えることができました。また特にビジネススクールの方々とチームになって動くことができ、たくさんのかんことを吸収することができたことは役に立ちました。今後も効果的な仮説検証をします。
- ビジネスモデルから特許に関するところまで様々なアドバイスを頂けてブラッシュアップすることができました。同時にチームが抱えていた資金面での支援によって私たちの**プロジェクトを加速させることができた**と思います。今後も邁進して参ります。
- 今回のプロジェクトで様々な知識やビジネスモデルについてのアドバイスをいただいたことは、すごく助かりました。また、資金の支援によって**自分の理想の実現まで近づくことができた**ととても実感しました。



講義の様子



最終成果発表

「日・スウェーデン未来プロジェクト」を利用した 研究者へのNABCワークショップ

次の課題の解決に向けての挑戦

- 研究者のイノベーション手法への関心が薄い、触れる機会が少ない
- 研究者と起業家教育者のネットワーク構築
- 海外先進大学との起業家教育共同プロジェクト実施機会の創出

「日・スウェーデン未来プロジェクト」を利用した 研究者へのNABCワークショップの実施



- スタンフォード大学で開発されたNABC (NEED, APPROACH, BENEFIT, COMPETITION) の手法を用い、日・スウェーデンの研究者、アントレプレナーシップ教育者、産学連携担当でチーム編成を行い、各人の研究や仕事の価値とそのマーケットへの応用をチーム内でピッチを繰り返しながら整理・発想した。
- 参加必須のプログラムとして約50名が参加して実施。
- ルンド大学の起業家教育センターとWASEDA-EDGEが共同で主催した。

(参加者の声)

- 非常に有益、かつ楽しかった。
- 良いネットワーキングの機会となった。
- いままで自分の研究と市場との関係を考えてこともなかったので、難しかったが良い機会となった。
- モチベーションが上がった。

未来

MIRAI

日・スウェーデン未来プロジェクトとは：

2015年10月に開かれた日瑞学長会議が発端となり、2016年10月第1回Scientific Committee会議を京都大学にて開催。両国の研究連携促進が狙い。双方から資金を拠出。まずは3年間の計画。研究テーマは、Ageing, Material Science, Sustainability, そしてイノベーション。

参加大学は、チャルマース工科大学、リンショーピン大学、ルンド大学、ストックホルム大学、ウメオ大学、ウプサラ大学、ヨーテボリ大学、九州大学、上智大学、東京工業大学、東京大学、名古屋大学、広島大学、北海道大学、早稲田大学。

2019年6月2日-5日 Ageing とイノベーションのワークショップを早稲田大学がホストで日本橋にて開催。この際に、初のAgeing とイノベーションの合同ワークショップを、参加必須のプログラム内で上記の概要で提案、開催した。

次の課題の解決に向けての挑戦

- 各プログラムにおける、最終発表に対するコメントを基にブラッシュアップしたアイデアを発表する場がない
- 各プログラムで創成したチームが共有できる中長期目標を設定してあげたい
- プログラムから出てきた良いチーム、アイデアを、まだプログラムに参加していない学生にみてもらい興味をもってほしい
- ビジネスアイデアの事業化への出口を強化したい

↳ WASEDA Demo Dayの実施

- ✓ 法人設立および事業立ち上げを検討している学生向けの、プロジェクト・アイデアを発表できる場。
- ✓ 優勝者には、**法人設立および事業立ち上げ資金として賞金50万円**がスポンサー（投資家）から贈呈されるとともに、**その他の特典として投資家の方々よりアドバイスをもらえるメンター権も贈呈。**

■スポンサー（順不同）：

- インテグラル・インベストメント株式会社
- ウェルインベストメント株式会社
- ラーニング・アントレプレナーズ・ラボ株式会社

➡ **優勝チームはメンターのサポートを受けながら
法人設立準備中**



実施イベント一覧 (1/2)

開催	イベント名称	目的・内容
2018/5/25	中国アリババグループの創業者 ジャック・マー会長による特別対談	未来のグローバルリーダーを目指す2名のWaseda-EDGEプログラム受講生（今林広樹博士後期課程1年、葦苳晟矢一貫制博士課程2年）、玉城絵美理工学術院准教授とアントレプレヌールシップ（起業家精神）や持続可能な食糧システム、そして技術開発等さまざまな分野について対話形式で議論した。
2018/5/17	Beyond 2020 Night	協働機関である、東京理科大学、山形大学からも参加者をつのり、協力機関である東京都産業労働局、大川ドリーム基金と連携して、Venture Café Tokyo（虎ノ門ヒルズ）と協働して実施した。2020年以降の社会を見据えて、イノベーションを引き起こしたい人は何をすべきか、2020年以降の日本を担う若者はどこを目指すべきなのかをテーマにディスカッションした。
2018/6/6	アダム・ディアンジェロ氏 （Facebook 初代CTO、“Quora”CEO）が 早稲田に来校！：エンジニアが語る、 起業家精神とは？	アダム・ディアンジェロ氏の学生時代の話からFacebook CTOを経て時価総額10億ドルを超えるユニコーン企業になった「Quora」を設立・成長させた過程や、AIが社会や新ビジネス創出にどのようなインパクトや恩恵をもたらすのかを紹介した後、起業したWaseda-EDGEプログラム受講生と面会する機会を設定した。本講演会は先方からの開催打診により実現した。
2018/10/4	Beyond 2020 Night Vol. 2 Supervised by SKYWARD EDGE CONSORTIUM - “新しい未来を デザインする”	2020年を目前に、2020年以降の社会を見据えて、イノベーションを引き起こしたい人は何をすべきか、2020年以降の日本を担う若者はどこを目指すべきなのかについて語り合う企画をVenture Café Tokyoと協働して実施した。学生起業家によるピッチや座談会、未来を形作るためのヒントとなるInclusive Innovationに関わるレクチャーなどと共に、「新しい未来をデザインする」ためのヒントをネットワーキングも交えながら議論した。

実施イベント一覧 (2/2)

開催	イベント名称	目的・内容
2018/11/15	早稲田大学 × ASHOKA × みずほ銀行 による ソーシャルイノベーションへの取り組み リカルダ・ゼツザ来日講演	女性の社会的活躍のためのイノベーションを起こした、リカルダ氏の講演とディスカッションを、早稲田大学とみずほ銀行、世界的なソーシャル・アントレプレナーのグローバルネットワークであるアショカ財団との協働により開催。 (主催：早稲田大学WASEDA-Edge人材育成プログラム、早稲田大学ダイバーシティ推進室、協力：一般社団法人アショカ・ジャパン、みずほ銀行)
2018/12/9	HULT PRIZE 早稲田大学大会 「ほんとうに世界を変えられる ビジネスコンテスト」	HULT PRIZE 学内選考の開催
2019/1/16	ミュージックアイデアコンテスト最終選考会	(株)レコチョクからの協賛を受けて、音楽に関するアイデアコンテストを実施した。書類選考(1次選考)を通過した参加者が本最終選考会に参加し、審査員および一般観覧者を前にアイデアを発表した。
2019/1/24	SHIBUYA SCRAMBLE SERIES Vol.1 WASEDA-EDGE × SHIBUYA QWS Presents 「次世代イノベーターのためのエッセンシャルズ」	2019年11月1日にオープンする「SHIBUYA QWS」のプレイベントであるSHIBUYA SCRAMBLE SERIES の初回として渋谷スクランブルスクエア株式会社と共同で実施した。Yahoo JAPANの川邊健太郎CEOを迎え、渋谷100 BANCHにおいて公開授業形式で開催。 ★渋谷スクランブルスクエア株式会社、東京大学、東京工業大学、慶應義塾大学、早稲田大学、東京都市大学の6者は、産学連携でのイノベーション創出や発信およびクリエイティブ人材の育成を目的に、連携事業協定(以下、本協定)を2018年7月11日に締結。
2019/2/7,3/1	イノベーション創出セミナー	「人を幸せにする評価・教育で、人を幸せにする人をつくる」をビジョンに、AIとビッグデータを利用し、人間のバイアスを排除した評価と、教育事業を担うIGS株式会社の創業者・福原正大氏による特別講演会、およびIGSエンジニアによるデータサイエンティスト育成を目的とした実践セミナー(初級及び上級)を実施

2017春・夏学期ビジネス・クリエーションコース受講状況

区分	科目名付クラス名	計
意識醸成	起業家養成講座 I 1	297
	起業家養成講座 I 1	191
	起業特論 A : トップリーダーマネジメント	15
	起業特論 B : スタートアップエッセンシャル 0 1	14
	Advanced Course on Entrepreneurship D	24
アイデア創造	BID (ビジネス・アイデア・デザイン) 新しい価値を生み出す技術	45
	イノベーション・プラクティス	19
	イノベーション創出思考法 1	20
BM仮説検証	ビジネスモデル仮説検証 (エッセンシャル) 0 1	26
産学提携科目	イノベーションとテクノロジー基礎 α : 人工知能・先端ロボットテクノロジーの基礎とスタートアップを学ぶ	54
	イノベーションとテクノロジー基礎 β : 人工知能・先端ロボットテクノロジーの基礎とスタートアップを学ぶ	43
	CSRマネジメント実践 0 1	3
	博士実践特論 A : イノベーションリーダーシップ 0 1	7
	博士実践特論 B : 産業イノベーションとキャリアデザイン	6
	博士実践特論 S : ロジカルコミュニケーション	25

(うち学部生数 : 644名)

2017秋・冬学期ビジネス・クリエーションコース受講状況

区分	科目名	計
意識醸成	起業特論 B : スタートアップエッセンシャル 0 2	5
	起業特論 C : トップリーダーマネジメント	6
アイデア創造	ビジネスモデルデザイン	16
	イノベーション創出思考法 2 (学部生用)	1
	イノベーション創出思考法 2	2
BM仮説検証	ビジネスモデル仮説検証 (エッセンシャル) (学部生用) 0 2	40
	ビジネスモデル仮説検証 (エッセンシャル) 0 2	5
	ビジネスモデル仮説検証 (プレミアム) (学部生用) 0 1	8
産学提携科目	博士実践特論 A : イノベーションリーダーシップ 0 2	3
	グローバルビジネスコミュニケーション基礎	9
	グローバルビジネスコミュニケーション上級	6
	イノベーション概論 α : 次世代イノベーターのためのエッセンシャルズ (学部生用)	50
	イノベーション概論 α : 次世代イノベーターのためのエッセンシャルズ	8
	イノベーション概論 β : 次世代イノベーターのためのエッセンシャルズ (学部生用)	51
	イノベーション概論 β : 次世代イノベーターのためのエッセンシャルズ	8
	イノベーションとテクノロジー実践 α : 人工知能・先端ロボットテクノロジー実践 (学部生)	42
	イノベーションとテクノロジー実践 α : 人工知能・先端ロボットテクノロジー実践	10
	イノベーションとテクノロジー実践 β : 人工知能・先端ロボットテクノロジー実践 (学部生)	42
	イノベーションとテクノロジー実践 β : 人工知能・先端ロボットテクノロジー実践	10

322

(うち学部生数 : 234名)

春・夏学期 789名、秋・冬学期 322名、合計 1,111名受講登録

2019年春・夏学期ビジネス・クリエーションコース受講状況

区分	科目名付クラス名	計
意識醸成	起業の技術 (12 Essentials) 1	111
	起業家養成講座I 1	248
	ビジネス・プロフェッション (企業) α	161
	ビジネス・プロフェッション (企業) β	143
	起業特論A : トップリーダーマネジメント	93
	起業特論B : 企業内新規事業開発	77
	Advanced Course on Entrepreneurship D	44
	イノベーション人材になるためのコーチング研修 (ベーシック)	38
アイデア創造	ビジネスアイデア・デザイン (BID) 1	64
	ビジネスモデル・デザイン	75
	イノベーション創出思考法 1	20
	イノベーション・プラクティス	32
BM仮説検証	ビジネスモデル仮説検証 (エッセンシャル) 0 1	40
産学提携科目	イノベーションとテクノロジー基礎 α : 人工知能・先端ロボットテクノロジーの基礎とスタートアップを学ぶ	76
	イノベーションとテクノロジー基礎 β : 人工知能・先端ロボットテクノロジーの基礎とスタートアップを学ぶ	78
	博士実践特論A : イノベーションリーダーシップ 0 1	17
	博士実践特論S : ロジカルコミュニケーション	14

1,331

(うち学部生数 : 1,099名、学部生比率 : 82%、前年+542名)

2019年秋・冬学期ビジネス・クリエーションコース受講状況

区分	科目名	計
意識醸成	実践・起業インターン (REAL) I 1	2
	起業家養成講座I I 1	310
	ビジネス・プロフェッション (行政) α	54
	ビジネス・プロフェッション (行政) β	53
	起業特論C : トップリーダー・マネジメント	101
アイデア創造	イノベーション創出思考法 2	6
BM仮説検証	ビジネスモデル仮説検証 (エッセンシャル) 0 2	36
	ビジネスモデル仮説検証 (プレミアム) 0 1	10
産学提携科目	イノベーション概論 α : 次世代イノベーターのためのエッセンシャルズ	107
	イノベーション概論 β : 次世代イノベーターのためのエッセンシャルズ	101
	イノベーションとテクノロジー実践 α : 人工知能・先端ロボットテクノロジー実践	51
	イノベーションとテクノロジー実践 β : 人工知能・先端ロボットテクノロジー実践	44
	博士実践特論B : 産業イノベーションとキャリアデザイン	8
	グローバルビジネスコミュニケーション基礎	7
	グローバルビジネスコミュニケーション上級	9
	CSRマネジメント実践 0 2	1

900

(うち学部生数 : 776名、学部生比率 : 86%、前年+578名)

春・夏学期1,331名、秋・冬学期900名、
合計2,231名 (前年+1,120名、前年比 : 201 %) 受講登録

ビジネス・クリエーションコース以外の実施プログラム

区分	科目名付クラス名	計
意識醸成	小分けプログラム	300
	microMBA online	17
	中国重点大学群からの学生を対象としたサマープログラム	101
	中国重点大学群からの学生を対象としたウィンタープログラム	44
アイデア創出	【2018年共創館プログラム 学術編】 戦略デザインワークショップ～明日に使えるわざとして戦略論を学ぶ～	253
	【2018年共創館プログラム 実務編】 株式会社ニトリ共催 商品開発ワークショップ～デザイン思考を学び、実践する～	113
	【2018年共創館プログラム 実務編】 バブソン大学との共同ワークショップ「デザイン思考」で異文化交流 ～アイデア創造や課題抽出にかかわるワークショップ～	22
	2018年度 海外集中講座 Business Communication workshop	42
	スタンフォード大学d.school講師による、デザイン思考ワークショップ	32
BM仮説検証	医療特化型ビジネスモデル仮説検証プログラム※	7
	多摩美術大学×WASEDA-EDGEプログラム連携講座	26
	富山県「新規事業創造インターンシップ」	25
起業	WASEDA-EDGE・ギャップファンド・プロジェクト	26
コーチング・その他	コーチング研修II (アドバンス) クライアント募集！：起業に向け、プロのビジネスコーチをつけよう！（第二ターム）	6
	富山1dayプログラム	29
	English Bootcamp for Advanced and Practical Business Presentation and Discussion	15
	【2018年共創館プログラム 実務編】 多様な外国人との共生と協働の時代のコミュニケーション 「EQとローコンテクストをベースとしたLeadership CommunicationとGlobal Collaboration」	56
	SkywordEDGE合同FD研修	21

※ 後半は正規科目のビジネスモデル仮説検証（エッセンシャル）に合流

1,144

平成30年度 受講者数

	受講者数	受講者のうち、 学部生	受講者のうち、 院生	受講者のうち、 若手研究者	受講者のうち、 主催機関外
コンソーシアム全体	4,728	3,913	610	45	380

早稲田大	BCC	2,231	1,847	356	0	30
	上記以外	1,135	793	221	30	256
早大合計		3,366	2,640	577	30	286

※BCC（ビジネスクリエーションコース）は年間33科目実施

※医療特化型BM仮説検証受講者のうち、BM仮説検証（Iセッション）を履修登録した者はBCCでカウント

EDGE-NEXTでの育成状況

- 全学生に実践的アントレプレナーシップ教育を提供
- 起業に挑戦しようとする人を支援できる体制を整備
- 国内外のネットワークを構築し、エコシステムを確立

<これまで（2年間）の状況>

- 受講生数：**7,585名** このうち8割が学部生
 - 提案時に記載していた2年目までの目標（1,460名）に対し、**達成率520%**
- 起業数：**13件**
- 外部資金：**？ ？ ？ ？ 千円**
 - 2年間での補助金額に対する外部資金割合は？ ？ ？ %

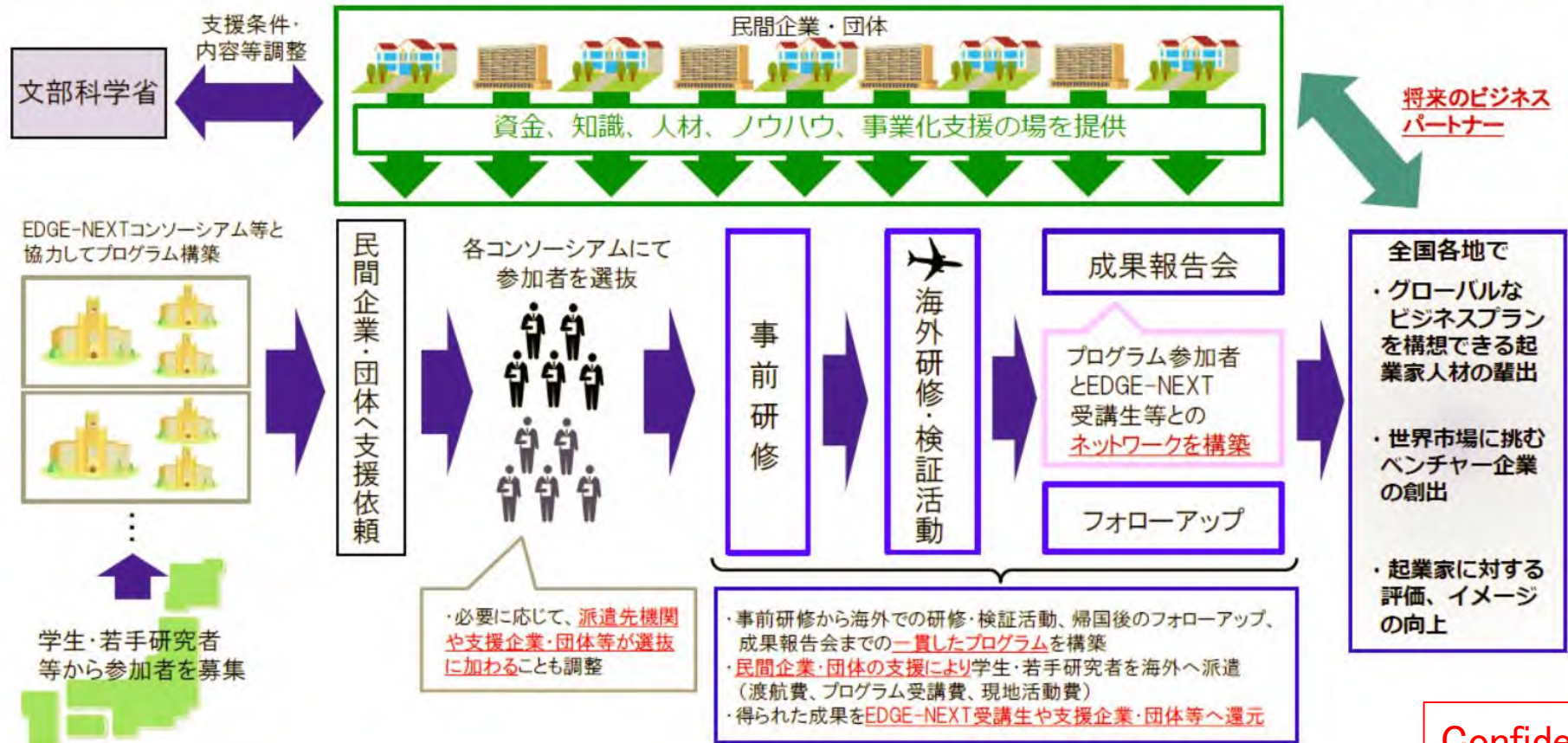
文部科学省アントレプレナー育成海外武者修行プログラム

アントレプレナー育成海外武者修行プログラム

背景

グローバルな視点に立ってイノベーションの創出を生み出すことや、多様な挑戦が連鎖的に起こる環境を整備することが重要。

アントレプレナー育成の中核大学（EDGE-NEXT参画大学等）の協力により、民間企業・団体からの支援の下、有望な若手起業家人材を海外に派遣し、世界最先端のビジネスの場における学びや実践（武者修行）を通じて、世界市場に挑むベンチャー企業の創出や、我が国におけるアントレプレナーのロールモデルとなる人材の育成を図る。



文部科学省 アンブレプレナー育成海外武者修行プログラム

No Venture, No Victory Program (NVx2)

イスラエルにおける海外武者修行



No Venture, No Victory Program (NVx2) 概要

◆ビジョン：

「グローバルトップリーダー」、「社会イノベーター」、「SDGs人材[※]」を目指し、失敗を恐れず、挑戦するアントレプレナーを育成する。

※SDGs人材：Sustainable Development Goalsの実現に貢献する人材のことを指す

◆ミッション：

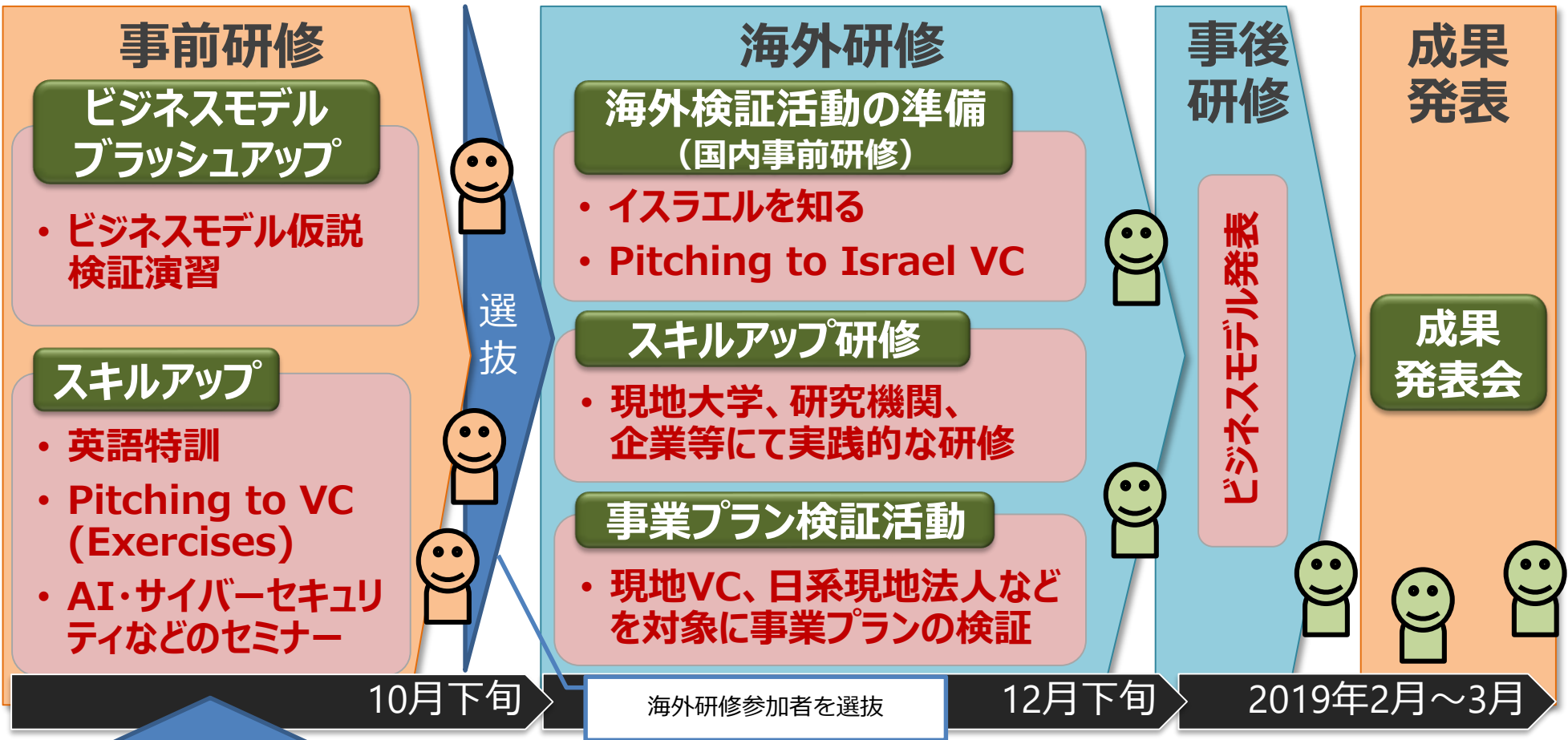
サイバーセキュリティ、AI、ロボティクス、IoT、ナノテクノロジーなど先端テクノロジーを基盤とした新規事業を立ち上げ、国際的なビジネスへと展開できる素養と実践的スキルをSKYWARD EDGEプログラムなどを活用して習得させ、当該テクノロジーの世界的レベルのスタートアップ企業が群拠しているイスラエルの企業・大学・研究機関へ派遣・研修し、グローバル・トップアントレプレナーへの飛躍の契機を与えることをミッションとする。

◆産学官連携の仕組み：

国内での育成には文部科学省「次世代アントレプレナー育成事業」の事業費、海外での育成には民間・財団・個人などの寄附をもとに実施する「マッチング型産学官連携のグローバル人材育成」の新しい仕組みの事業

2018年度の取り組みの紹介

実施内容とスケジュール



8月上旬

公募・選考

EDGE・D-DATa 受講者など



2018年度の取り組みの紹介 国内事前研修

早稲田大学 アントレプレナー育成 海外武者修行
プログラム

2018年度国内事前研修： 実践的英語の合宿型修行（10月20日-21日）@横浜

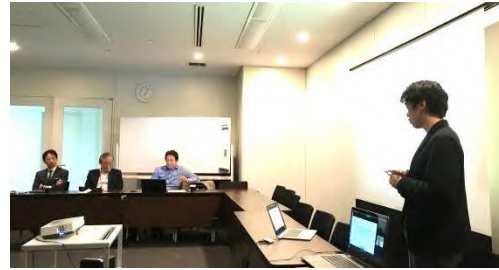


2018年度の取り組みの紹介

国内事前研修

早稲田大学 アントレプレナー育成 海外武者修行
プログラム

2018年度国内事前研修： イスラエルのベンチャーキャピタリストへのビジネスモデルの遠隔ピッチ (12月3日) @早稲田大学ツインズ



2018年度の取り組みの紹介

国内事前研修

早稲田大学 アントレプレナー育成 海外武者修行
プログラム

2018年度国内事前研修：

イスラエル大使館による「イスラエルの歴史・文化・社会を知る」

(12月9日) @早稲田大学楠亭



2018年度海外研修：

イスラエルの大学・研究機関の教員・研究者、及びベンチャー・個人投資家・ベンチャーキャピタリストからの講義・アドバイス（12月23日-1月7日）@ヘルツェリア（コランダムイノベーション社）

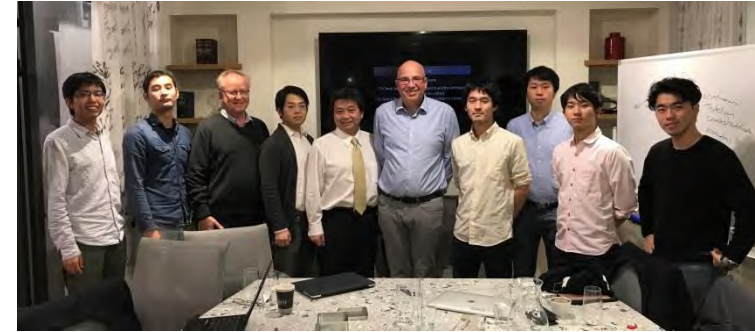
- 先端テクノロジーの大学教員・研究者による講義
 - ✓暗号理論 7 セッション; 17時間
 - ✓人工知能技術（自然言語処理） 5 セッション; 15 時間
 - ✓アントレプレナーシップ 6 セッション; 15 時間
- 個人投資家による講義(2-3時間) X 5回
- ベンチャーキャピタリストへのピッチ, ベンチャー・ベンチャーキャピタリストとのミートアップ, スタートアップベンチャーとの意見交換・ビジネス交渉

2018年度の取り組みの紹介 イスラエルでの海外研修

早稲田大学 アントレプレナー育成 海外武者修行
プログラム

2018年度海外研修：

講義・ミートアップ@ヘルツェリア（コランダムイノベーション社）



2018年度の取り組みの紹介

選抜メンバー

早稲田大学 アントレプレナー育成 海外武者修行
プログラム

- **Yuma Hayashi**
AIREV Inc., CEO / Alumni of Waseda University



- **Tsuyoshi Morioka**
AIREV Inc., CSO / 2nd year of Ph.D. Program of Waseda University

- **Hiroki Imabayashi**
EAGLYS, Inc., CEO /
2nd year of Ph.D. Program of Waseda University

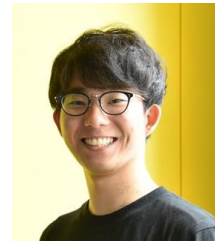


- **Yusuke Maruyama**
EAGLYS, Inc., CSO / Ph.D. of Waseda University

- **Tanaphol Suebchua**
EAGLYS, Inc., AI engineer / Ph.D. of Waseda University



- **Miguel Alejandro Mitsuishi Bravo**
EAGLYS, Inc., AI engineer(Internship) /
2nd year of Undergraduate School of Waseda University



- **Ko Matsuhiro**
Yspace LLC., Co-Representative Director /
1st year of Master Program of Waseda University



2018年度事後研修： イスラエル大使主催レセプションでの海外研修報告（2月20日） @イスラエル大使館



2018年度の取り組みの紹介 事後研修

早稲田大学 アントレプレナー育成 海外武者修行
プログラム

2018年度事後研修： 文部科学省 平成30年度 次世代アントレプレナー 育成事業東京シンポジウムでの海外研修報告 (3月14日) @東京ミッドタウン日比谷



両日とも受講生が「何を学び」、「何が変わったか」について直接、成果報告
学生、研究者、スタートアップ企業、大学教員、起業支援者、企業関係者

3月14日(木) 13時00分 ~ 18時00分
開催場所：東京ミッドタウン日比谷 6F BASE Q HALL 2

3月15日(金) 13時00分 ~ 18時00分
開催場所：東京ミッドタウン日比谷 6F BASE Q HALL 2

【定員150人 無料】
**アントレプレナー育成
海外武者修行プログラム報告**

主催：東京大学産学協創推進本部
協力：公益財団法人 孫正義育英財団、三井不動産株式会社、
ANA ホールディングス株式会社、
早稲田大学 WASEDA-EDGE 人材育成プログラム

【定員250人 無料】
**EDGE-
コンソーシアム**

主催：Global
EDGE (東京大
学) 産学協創推進本部
協力：三井不動
産株式会社

3月14日(木) 18時00分 ~ 情報交換会 ※参加者、スタッフ
会場：Q CAFE by Royal Garden Cafe 東京ミッドタウン日比谷
申込：事前申込制



<http://waseda-innovation-edu.jp/>

本田アカデミー (<http://waseda-innovation-edu.jp/honda>)

・ ミッション

ホンダアカデミーでは、[本田技術研究所](#)から支援を受け、産学連携・文理融合により、「人間尊重」、「三つの喜び」を理解し、地球規模の環境問題、複雑化する国際情勢に対して、アントレプレナーまたはイントレプレナーとして、課題の解決に寄与できる人材を教育・研究を通して育成することをミッションとする

- ・ グローバルな課題への洞察、異文化・歴史への理解、進歩する科学技術への知識を備え、新しいビジネスを構築し、リーダーシップを発揮しながら、周囲を巻き込んで実践できる人材
- ・ 海外での活動経験を得て、積極的に英語や異文化でのコミュニケーションを取り、多様性社会において新しい領域・分野を先導できる人材

産学連携イノベーション教育プログラム

大川アカデミー (<http://waseda-innovation-edu.jp/okawa>)

・ ミッション

早稲田大学イノベーション教育プログラムの一つとして、大川ドリーム基金から支援を受け、「大川アカデミー」を開設し、イノベーション人材育成講座「イノベーション概論」、「アントレプレナー養成海外派遣プログラム」を産業界と協力・連携して運営し、アントレプレナーやイントレプレナーを養成、新規事業を支援する。とくに、理工系イノベーション人材の養成に力を入れる。

博士人材の起業例

●株式会社Genics

栄田氏（高西研）が修士課程在学中に受講した多摩美大連携プログラム等をきっかけに起業に至る。

- ・設立：2018年4月
- ・社長：栄田源（早大博士）
- ・事業概要：ロボット技術を応用した製品開発
（全自動歯磨きロボットの開発）



●合同会社Yspace

田中氏（高西研卒）、松広氏（高西研）を含むチームが2018年度Project MARS Education League JPへの参加を機に設立。

- ・設立：2018年6月
- ・代表：松広航（早大修士）、田中克明（早大博士修了）、日高萌子（慶大修士）、川崎吾一（東理大ポスドク）
- ・事業概要：宇宙向けのVRコンテンツの開発・販売、宇宙を題材としたVRコンテンツ制作のコンサルティング



●株式会社ECOLOGGIE

葦苳氏（朝日研）が2016年2月ジャパンビジネスモデルコンペ優勝、EDGEプログラム参加を契機に理工系博士進学と起業を実行、2019年7月、Forbes JAPAN 30歳未満30人の日本人に選ばれる。

- ・設立：2017年11月
- ・代表：葦苳晟矢（早大一貫制博士）
- ・事業概要：昆虫（コオロギ）を主要原料とした養魚飼料の研究開発及び販売、現在、カンボジアで活動中。



ご清聴ありがとうございました。